

平成 30 年度

人間生活学総合研究科教授内容

造形学専攻

東京家政大学大学院

30 シラバス 造形学専攻

(3) 造形学専攻(修士課程)

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考(シラバスページ)	
服飾美術分野	被服科学	被服材料学特論	2	選	准教授 濱田 仁美	中・高専(家庭) P1
		被服材料学演習	2	選	准教授 濱田 仁美	中・高専(家庭) P2
		被服管理学特論	2	選	客員教授 小林 泰子	中・高専(家庭) P3
		被服管理学演習	2	選	客員教授 小林 泰子	中・高専(家庭) P4
		繊維加工学特論	2	選	教授 森 俊夫	中・高専(家庭) P5
		繊維加工学演習	2	選	教授 森 俊夫	中・高専(家庭) P6
		被服科学実験	1	選	准教授 濱田 仁美	中・高専(家庭) P7
	服飾造形学	被服構成学特論	2	選	教授 潮田 ひとみ	中・高専(家庭) P8
					教授 高水 伸子	
		被服構成学演習	2	選	教授 潮田 ひとみ	中・高専(家庭) P10
					教授 高水 伸子	
		被服構成学実験	1	選	教授 潮田 ひとみ	中・高専(家庭) P12
					教授 高水 伸子	
		アパレル設計学特論	2	選	教授 山田 民子	中・高専(家庭) P14
		アパレル設計学演習Ⅰ	2	選	教授 山田 民子	中・高専(家庭) P15
		アパレル設計学演習Ⅱ	2	選	教授 山田 民子	中・高専(家庭) P16
		和服造形学特論	2	選	准教授 寺田 恭子	中・高専(家庭) P17
	和服造形学演習	2	選	准教授 寺田 恭子	中・高専(家庭) P18	
	服飾工芸演習	2	選	准教授 大塚 有里	中・高専(家庭) P19	
	服飾デザイン学	服飾文化史特論	2	選	准教授 沢 尾 絵	中・高専(家庭) P20
					客員教授 能 澤 慧子	
		服飾文化史演習Ⅰ	2	選	准教授 沢 尾 絵	中・高専(家庭) P22
		服飾文化史演習Ⅱ	2	選	准教授 沢 尾 絵	中・高専(家庭) P23
		客員教授 能 澤 慧子	中・高専(家庭) P24			
		染織史特論		2	選	講師(兼任) 長 崎 巖
		ファッション情報学特論	2	選	教授 松 木 孝幸	中・高専(家庭) P26
		ファッション情報学演習Ⅰ	2	選	教授 松 木 孝幸	高専(家庭) P27
					准教授 田 中 早苗	
		ファッション情報学演習Ⅱ	2	選	教授 松 木 孝幸	高専(家庭) P29
	准教授 田 中 早苗				高専(家庭) P30	
服飾デザイン特論	2	選	教授 石 田 恭嗣	中・高専(家庭) P31		
服飾デザイン演習	2	選	教授 石 田 恭嗣	中・高専(家庭) P32		
色彩表現論	2	選	教授 石 田 恭嗣	中・高専(家庭) P33		
服飾デザイン表現演習	2	選	教授 桃 木 美恵	中・高専(家庭) P34		
造形表現分野	メディア表現	デジタルデザイン特論	2	選	准教授 宮 本 真帆	中・高専(美術) P35
		デジタルデザイン演習Ⅰ	2	選	准教授 宮 本 真帆	中・高専(美術) P36
		デジタルデザイン演習Ⅱ	4	選	准教授 宮 本 真帆	中・高専(美術) P37
		映像メディアアート特論	2	選	教授 兼 古 昭彦	中・高専(美術) P39
		映像メディアアート演習Ⅰ	2	選	教授 兼 古 昭彦	中・高専(美術) P40
		映像メディアアート演習Ⅱ	4	選	教授 兼 古 昭彦	中・高専(美術) P41
		美術史特論	2	選	准教授 曾 根 博美	中・高専(美術) P43
	工芸	陶芸特論	2	選	教授 高 田 三平	中専(美術) P44
		陶芸演習Ⅰ	2	選	教授 高 田 三平	中専(美術) P45
		陶芸演習Ⅱ	4	選	教授 高 田 三平	中専(美術) P46
金工・ジュエリー特論		2	選	教授 押 元 信幸	中専(美術) P48	
金工・ジュエリー演習Ⅰ		2	選	教授 押 元 信幸	中専(美術) P49	
金工・ジュエリー演習Ⅱ	4	選	教授 押 元 信幸	中専(美術) P50		

30 シラバス 造形学専攻

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備考 (シラバスページ)	
造形表現分野	工芸	染色造形特論	2	選	准教授 早瀬 郁恵	中専(美術) P52
		染色造形演習Ⅰ	2	選	准教授 早瀬 郁恵	中専(美術) P53
		染色造形演習Ⅱ	4	選	准教授 早瀬 郁恵	中専(美術) P54
		織物特論	2	選	講師 大木 敦子	中専(美術) P56
		織物演習Ⅰ	2	選	講師 大木 敦子	中専(美術) P57
		織物演習Ⅱ	4	選	講師 大木 敦子	中専(美術) P58
	平面表現	絵画特論	2	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術) P60
		絵画演習Ⅰ	2	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術) P61
		絵画演習Ⅱ	4	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術) P62
		グラフィックデザイン特論	2	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術) P63
		グラフィックデザイン演習Ⅰ	2	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術) P64
		グラフィックデザイン演習Ⅱ	4	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術) P65
	空間表現	住環境特論	2	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭) P67
		住環境演習Ⅰ	2	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭) P68
		住環境演習Ⅱ	4	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭) P69
		インテリアデザイン特論	2	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭) P71
		インテリアデザイン演習Ⅰ	2	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭) P72
		インテリアデザイン演習Ⅱ	4	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭) P73
研究指導	特別研究・制作	10	必	教授 山田 民子 有馬 十三郎 石田 恭嗣 潮田 ひとみ 押元 信幸 兼古 昭彦 高田 三平 高水 伸子 手嶋 尚人 松木 孝幸 森 俊夫 准教授 豊田 聡朗 濱田 仁美 早瀬 郁恵 山藤 仁	P75	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

授業科目名：被服材料学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：濱田仁美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服材料としての繊維について、専門的知識を修得する。</p> <p>被服材料に関連する英単語を習得し、英文文献の読解力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>被服材料の大半は繊維製品からなり、原材料の繊維及び繊維集合体の構造や性質は、最終製品である被服の性能に密接に関連している。天然繊維や合成繊維の構造及び特性、機能性繊維の開発動向について講述する。教材は英文のテキストを使用する。</p> <p>服飾美術分野において、繊維についての専門的知識を修得し、専門英文の読解力を向上させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：繊維及び繊維集合体の特性【総論】</p> <p>第2回：繊維及び繊維集合体の特性【化学的特性】</p> <p>第3回：繊維及び繊維集合体の特性【物理的特性】</p> <p>第4回：天然繊維の構造と特性【総論】</p> <p>第5回：天然繊維の構造と特性【植物系天然繊維】</p> <p>第6回：天然繊維の構造と特性【動物系天然繊維】</p> <p>第7回：再生繊維の構造と特性【総論】</p> <p>第8回：再生繊維の構造と特性【レーヨンなど】</p> <p>第9回：再生繊維の構造と特性【セルロース系繊維】</p> <p>第10回：合成繊維の構造と特性【総論】</p> <p>第11回：合成繊維の構造と特性【紡糸法】</p> <p>第12回：合成繊維の構造と特性【繊維の特性】</p> <p>第13回：繊維の改質法【ナノファイバー】</p> <p>第14回：繊維の改質法【機能性繊維】</p> <p>第15回：まとめと解説</p>			
<p>準備学習：予習1時間、復習1時間</p> <p>授業前にテキストの次回範囲を読み、不明な英単語は調べておくこと。</p> <p>大学の「被服繊維学」「被服材料学」の復習。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「TEXTILES: Concepts and Principles」</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>必要に応じて、その都度指示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>予習復習を含めた授業時の回答等の平常点30点。課題に対するレポート提出30点。試験40点。</p>			

授業科目名：被服材料学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：濱田仁美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>繊維材料物性に関する専門的知識を修得する。</p> <p>研究遂行に必要な、文献の検索及び専門英文文献の読解を行う力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>被服材料としての繊維の特性、繊維材料の物性に関しての、英文文献の輪読を行う。科学文献の読み方を学び、英文の読解力を向上させると共に、過去の研究結果や既存技術の把握を行う。必要なキーワードから、適切な文献を検索する方法を習得する。</p> <p>服飾美術分野において、繊維材料物性についての専門的知識を修得し、適切な文献を検索する力及び専門英文文献の読解力を向上させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：英文文献の読み方や検索方法の説明</p> <p>第2回：テキスト「繊維の特性」の輪読</p> <p>第3回：テキスト「繊維の特性」の輪読（続き）</p> <p>第4回：テキスト「繊維の特性」の輪読（続き）</p> <p>第5回：テキスト「繊維の特性」のまとめと発表</p> <p>第6回：テキスト「繊維材料の物性」の輪読</p> <p>第7回：テキスト「繊維材料の物性」の輪読（続き）</p> <p>第8回：テキスト「繊維材料の物性」の輪読（続き）</p> <p>第9回：テキスト「繊維材料の物性」のまとめと発表</p> <p>第10回：英文文献の検索</p> <p>第11回：英文文献の輪読</p> <p>第12回：英文文献の輪読（続き）</p> <p>第13回：英文文献の輪読（続き）</p> <p>第14回：英文文献のまとめと発表</p> <p>第15回：最終発表と討論</p>			
<p>準備学習：予習1～2時間、復習1時間</p> <p>各授業前に、担当分の全文和訳を行っておくこと。大学の「被服繊維学」「被服材料学」の復習。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「TEXTILES: Concepts and Principles」</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>自ら文献検索を行う。その他、必要に応じて指示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>予習復習を含めた授業時の発表等の平常点40点。課題に対するレポート提出30点。最終発表30点。</p>			

授業科目名： 被服管理学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：小林泰子
授業の到達目標及びテーマ 衣類の洗濯に用いる洗剤の成分の働き、汚れ除去のメカニズムを理解し、環境に優しい洗濯方法を考え、今後の研究や日常生活に活かすことを目標とする。			
授業の概要 衣料用洗剤には、様々な機能を持つ製品があり、環境に配慮し、且つ洗浄力の高い洗剤を選ぶためには、界面活性剤の種類や性質、洗浄のメカニズムを理解する必要がある。洗濯には、水、洗濯機なども使用する。環境負荷の少ない系で汚れを落とすには、それぞれの役割、洗剤配合剤の効果、機械力についても考え、最適条件で衣類を管理することが望まれる。これらを理解し、洗剤、水、電力使用量の軽減、機械力による布の傷みを考慮した、環境にやさしく、衣服を長持ちさせる洗浄法を修得する。			
授業計画 第1回：水と洗濯 第2回：洗剤 第3回：洗浄作用のメカニズム（1）ぬれ 第4回：洗浄作用のメカニズム（2）分散作用 第5回：洗浄作用のメカニズム（3）乳化作用 第6回：泡沫と洗浄 第7回：洗浄における酵素の作用 第8回：汚れの除去と漂白・増白 第9回：汚れの除去と機械作用 第10回：洗浄力の評価 第11回：洗濯の方法 第12回：洗濯の条件 第13回：すすぎと脱液 第14回：乾燥 第15回：洗濯と環境問題			
準備学習：予習1時間、復習・ノート整理1時間			
テキスト：日本放送出版協会発行「洗濯と洗剤の科学」			
参考書・参考資料等：必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答え、出席などの平常点40点。課題に対するレポート提出40点。			

授業科目名： 被服管理学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：小林泰子
授業の到達目標及びテーマ 衣類の洗濯に関連した海外の文献の探し方、読み方、発表の仕方を学び、さらに、現在、注目されている問題を把握し、研究内容に盛り込むことを目標とする。			
授業の概要 衣類の汚れ除去機能を持つ界面活性剤の働き、洗浄作用につき書かれた洋書輪読を行い、関連の単語、文章を覚え、洋書講読に慣れ親しむとともに、界面活性剤による洗浄のメカニズムにつき理解を深める。			
授業計画 第1回：Aggregation in detergent solutions (前半講読) 第2回：Aggregation in detergent solutions (前半解説) 第3回：Aggregation in detergent solutions (後半講読) 第4回：Aggregation in detergent solutions (後半解説) 第5回：Wetting (前半講読) 第6回：Wetting (後半講読) 第7回：Wetting (解説) 第8回：Dirt removal (前半講読) 第9回：Dirt removal (前半解説) 第10回：Dirt removal (後半講読) 第11回：Dirt removal (後半解説) 第12回：Effect of detergents on redeposition (前半講読) 第13回：Effect of detergents on redeposition (前半解説) 第14回：Effect of detergents on redeposition (後半講読) 第15回：Effect of detergents on redeposition (後半解説)			
準備学習：予習1時間、復習・ノート整理1時間			
テキスト：第1回目の授業で指示する。プリントを配布する。			
参考書・参考資料等：第1回目の授業で紹介する。			
学生に対する評価：予習・復習の有無20点。発表、出席などの平常点40点。課題に対するレポート提出40点。			

授業科目名： 繊維加工学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：森 俊夫
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>繊維製品には、付加価値を高めるために、染色や各種高機能を有する加工が施されている。最近の染色や各種加工方法、問題点などにつき環境と関連して解説し、繊維加工に関する知識を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>繊維製品には、繊維の種類により異なる染料が使用され、各種の染色が行われている。また、繊維製品の快適性、高性能化を目指し、多くの加工が行われている。それらを解説するとともに、最近の動向を捉え、問題点を挙げ、今後の繊維加工の方向性について考え、修了後、専門分野で活かせるよう指導する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：繊維加工の概要</p> <p>第2回：セルロース系繊維の染色</p> <p>第3回：セルロース系繊維の染色に関する最近の動向</p> <p>第4回：たんぱく質繊維の染色</p> <p>第5回：たんぱく質繊維の染色に関する最近の動向</p> <p>第6回：合成繊維の染色</p> <p>第7回：合成繊維の染色に関する最近の動向</p> <p>第8回：セルロース繊維の加工</p> <p>第9回：たんぱく質繊維の加工</p> <p>第10回：合成繊維の加工</p> <p>第11回：その他の加工</p> <p>第12回：最近の各種加工（吸水・速乾関係）</p> <p>第13回：最近の各種加工（温熱関係）</p> <p>第14回：繊維加工と安全性</p> <p>第15回：総括</p>			
<p>準備学習：予習1時間、復習・ノート整理1時間</p>			
<p>テキスト：第1回目の授業で指示する。適宜、プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：第1回目の授業で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答え、出席などの平常点40点。課題に対するレポート提出40点。</p>			

授業科目名： 繊維加工学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：森 俊夫
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>繊維加工に関連した海外文献の探し方、読み方、発表の仕方を学ぶ。現在、注目されている繊維加工に関する文献を講読し、研究に応用することを目的とする。修士論文をまとめる場合、また、将来の仕事の中で活用できる応用力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>繊維加工に関連した海外文献の探し方、読み方、まとめ方、発表の仕方を学び、現在どのような研究が進められているか、また、これらの文献を利用した研究の進め方について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：海外文献の検索方法、読み方、発表の仕方の説明</p> <p>第2回：海外文献の検索</p> <p>第3回：海外文献1報目の輪読</p> <p>第4回：海外文献1報目の輪読続き</p> <p>第5回：海外文献1報目のまとめ</p> <p>第6回：海外文献2報目の輪読</p> <p>第7回：海外文献2報目の輪読続き</p> <p>第8回：海外文献2報目のまとめ</p> <p>第9回：海外文献3報目の輪読</p> <p>第10回：海外文献3報目の輪読続き</p> <p>第11回：海外文献3報目のまとめ</p> <p>第12回：海外文献の最近の動向</p> <p>第13回：輪読した文献発表</p> <p>第14回：輪読した文献発表</p> <p>第15回：総括</p>			
<p>準備学習：予習1時間、復習・ノート整理1時間</p>			
<p>テキスト：文献検索で探し、プリントする。</p>			
<p>参考書・参考資料等：第1回目に紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答え、出席などの平常点40点。課題に対するレポート提出40点。</p>			

授業科目名：被服科学実験	単位数：1単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：濱田仁美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服科学に関する試験法を学び、正確に測定する技能を身につけ、結果を考察する高度な専門性を修得する。</p> <p>研究活動や就職後の業務に関して、探究心を持って自ら調べて解決する力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主要な被服材料である天然繊維や合成繊維から成る繊維製品を対象として、力学的特性や機能性などの物性評価を行うことを中心に、各自の研究課題に関連した実験に取り組む。</p> <p>服飾美術分野において、繊維製品の試験法を理解し、自ら試験する技能を身につけ、結果を考察する高度な専門性を修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：実験計画案の策定</p> <p>第2回：関連文献の検索と実験計画の策定</p> <p>第3回：実験計画の確定と具体的な実験方法の指導</p> <p>第4回：予備実験</p> <p>第5回：予備実験結果の報告、本実験方法の決定</p> <p>第6回：本実験</p> <p>第7回：本実験</p> <p>第8回：本実験</p> <p>第9回：本実験結果の報告、追実験の指導</p> <p>第10回：追実験</p> <p>第11回：追実験結果の報告、考察</p> <p>第12回：実験結果の取りまとめ</p> <p>第13回：実験結果の考察、ディスカッション</p> <p>第14回：発表資料作成</p> <p>第15回：実験成果の最終発表</p>			
<p>準備学習：予習1時間、復習1～2時間</p> <p>実験内容に関連した文献を読み、理解しておくこと。次回の実験手順を把握しておくこと。</p> <p>実験後の報告では、実験結果をレポートにして提出すること。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>試験方法のテキストを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>関連した文献については、必要に応じて指示又は検索の指導を行う。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>実験への取り組み等の平常点40点。報告時のレポート30点。最終発表30点。</p>			

授業科目名：被服構成学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：潮田 ひとみ
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>健康で快適な衣生活のために、人体－衣服－環境系における、衣服の機能ならびに衣服が健康に及ぼす影響について理解できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人体と衣服とのかかわりを、人の体温調節機構や身体特性、衣服が健康に及ぼす影響、近年開発された機能性衣服の特性から理解させ、着心地のよい被服設計を行うために必要な評価法について概説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：暑さ・寒さと健康</p> <p>第2回：寒い環境に適した衣服</p> <p>第3回：暑い環境に適した衣服</p> <p>第4回：進化する衣服</p> <p>第5回：衣服による圧迫と健康</p> <p>第6回：身体圧迫が健康に及ぼす影響</p> <p>第7回：睡眠と寝具</p> <p>第8回：衣服圧を利用した衣服</p> <p>第9回：皮膚の肌触りと健康</p> <p>第10回：汚れによる衣服の機能低下</p> <p>第11回：心地よい触感</p> <p>第12回：こころを測る</p> <p>第13回：乳幼児と妊産婦の衣服</p> <p>第14回：高齢者の衣服</p> <p>第15回：障がい者の衣服</p>			
<p>準備学習（予習・復習等）</p> <p>予習：該当範囲のテキストの読解（1時間）</p> <p>復習：関連分野の文献調査（1時間）</p>			
<p>テキスト</p> <p>アパレルと健康，日本家政学会被服衛生学部会編，井上書院</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜，教員が準備する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>評価割合は、授業への参加態度40%、演習課題30%、最終レポート30%とする。</p>			

授業科目名：被服構成学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：高水伸子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服を構成する上で必要不可欠な裁断法と制作技術に関する専門的知識を深める。大学院修士課程造形学専攻服飾造形分野におけるコースワークの授業として、主に服飾史や民族衣装を題材として、布の特性を生かした裁断法と効果的なシルエット表現法を分析し、創造する力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人間は気候風土に適合する衣服材料を工夫し、着装方法と関連付けた制作技術を発展させてきた。その歴史と、先人の知恵を学び、材料の価値観を引き出すテクニックを修得するとともに、衣服の持つ社会的な役割を再認識し、日常的な衣服から非日常的な舞台衣装まで視野に入れた衣服制作の実践力を修得していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：懸衣 一枚の布と着想の工夫</p> <p>第2回：寛衣 ゆるみが多く、簡単な裁断と縫製を施す衣服</p> <p>第3回：窄衣 裁縫密着型の衣服</p> <p>第4回：ヴォリュームの表現</p> <p>第5回：人工的にコントロールされるシルエット ①コルセット</p> <p>第6回：人工的にコントロールされるシルエット ②パニエ・クリノリン・バツル</p> <p>第7回：テーラーメイドの衣服 (男子服)</p> <p>第8回：テーラーメイドの衣服 (女子服)</p> <p>第9回：制作技術の伝承と型紙</p> <p>第10回：身頃続きの袖について①</p> <p>第11回：身頃続きの袖について②</p> <p>第12回：バイアスカットの衣服</p> <p>第13回：透ける素材と垂れる素材の衣服</p> <p>第14回：伸縮素材を用いた衣服①</p> <p>第15回：伸縮素材を用いた衣服②</p>			
<p>準備学習：予習1時間、復習・ノート整理1時間</p>			
<p>テキスト：なし</p> <p>内容に応じてプリントを配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：なし</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答えなどの平常点40点。課題に対するレポート提出40点。</p>			

授業科目名：被服構成学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：潮田 ひとみ
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>健康で快適な衣生活に関する文献を講読することで、被服構成学特論における知識・理論をより深く理解できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>受講者の研究内容に関連する文献や資料を検索させ、健康で快適な衣生活に役立つ研究論文の講読を行わせる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：衣服と健康との関係について概説する。</p> <p>第2回：日常着の役割と体温調節の方法に関する論文の講読。</p> <p>第3回：肌着やファンデーションの機能と役割、健康に及ぼす影響に関する論文の講読。</p> <p>第4回：寝衣や寝具の機能と役割、健康に及ぼす影響に関する論文の講読。</p> <p>第5回：スポーツウェアの機能と役割、健康に及ぼす影響に関する論文の講読。</p> <p>第6回：宇宙服の機能や機能性繊維の構造と役割に関する論文の講読。</p> <p>第7回：特殊環境で必要とされる衣服素材の構造と役割に関する論文の講読。</p> <p>第8回：身体部位の違いによる機能性衣服の意義に関する論文の講読。</p> <p>第9回：高齢者の体温調節の特徴と生活、衣服の役割に関する論文の講読。</p> <p>第10回：子どもの体温調節の特徴と衣服の役割に関する論文の講読。</p> <p>第11回：環境、エネルギー対策の視点からみた衣服の役割に関する論文の講読。</p> <p>第12回：皮膚刺激と衛生・健康と衣服との関係に関する論文の講読。</p> <p>第13回：身体圧迫と健康との関係、睡眠と健康との関係に関する論文の講読。</p> <p>第14回：発汗、皮膚血流等の生理測定の方法に関する論文の講読。</p> <p>第15回：総括 健康で快適な衣生活のあり方について討議する。</p>			
<p>準備学習</p> <p>予習：関連文献ならびに関連書籍の講読と発表要旨の作成（5時間）</p> <p>復習：関連書籍・文献の検索と調査（1時間）</p>			
<p>テキスト</p> <p>関連文献は受講生が検索、もしくは教員が準備する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教員が適宜指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>評価割合は、授業への参加態度30%、発表の要旨25%、発表内容45%とする。</p>			

授業科目名：被服構成学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：高水伸子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服構成学特論で学ぶ内容を掘り下げ、平面製図法と型紙に関連する西欧の文献を原文で購読し、その変遷を学び、原語表現を含めて洋服文化を理解する。現代の衣服制作教育において平面製図法は一斉授業の有効な手段として研究され、採用されているが、西欧において雑誌などを通して一般の目に触れられるようになったのは、19世紀以降と比較的歴史は浅い。その事例を辿りながら、平面製図法による衣服制作の応用力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に19世紀以降のイギリス、アメリカ、フランスにおける衣服制作関連専門書や研究論文を題材に、受講生同士、輪番制で関連事項を調べ、発表する。文献は数種紹介するが、その中から学生本人が関心を持ったものをそれぞれ選んで読み進め、一連の作業を通して、デザイン画から型紙に落とし込む力、逆に型紙から応用デザインを発想する力を身に付け、時代衣装制作の基礎力とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 研究論文紹介①(フランス1860年代の婦人雑誌より)</p> <p>第2回： 研究論文紹介②(フランス1840年代の婦人雑誌より)</p> <p>第3回： 中世西洋の仕立業に見る型紙について</p> <p>第4回： 近代西洋の衣服制作に見る型紙について</p> <p>第5回： 構築的な衣装と男性仕立業者 (tailor , tailleur)</p> <p>第6回： 緩やかな衣装と女性仕立業者 (dressmaker , couturière)</p> <p>第7回： 19世紀の婦人雑誌に見る衣服制作</p> <p>第8回： ミシンと既製服</p> <p>第9回： 百貨店と既製服</p> <p>第10回： 型紙製作会社の役割</p> <p>第11回： ライセンスビジネスと型紙</p> <p>第12回： 第一次世界大戦の影響と現代服</p> <p>第13回： 2分の1サイズのトワール制作(自由課題)</p> <p>第14回： 2分の1サイズのトワール制作(自由課題)</p> <p>第15回： 2分の1サイズのトワール制作(自由課題)</p>			
<p>準備学習：予習1時間、復習・ノート整理1時間</p> <p>英語及びフランス語の基本的な服飾用語を覚えること</p>			
<p>テキスト：テキスト：なし</p> <p>内容に応じてプリントを配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：「衣服のアルケオロジー 服装からみた19世紀フランス社会の差異構造」 フィリップ・ペロー (大矢タカヤス訳) ,文化出版局, 1985</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答えなどの平常点40点。課題のできばえ40点。</p>			

授業科目名：被服構成学実験	単位数：1単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：潮田 ひとみ
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服構成学特論での知識・理論をもとに、実験やその評価・解析を通して、健康で快適な衣生活のあり方について理解を深めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>受講生の研究テーマに応じて、実験内容は適宜調整する。</p> <p>着用快適感といった快適性の評価法にかかわる測定器具の扱い方やデータ解析の方法、質問紙調査法・官能評価によるデータ収集の方法とその評価の方法について理解させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：衣服と健康について概説し、衣服圧が健康に及ぼす影響について実験する。</p> <p>第2回：衣服材料の分別方法について調査、報告し、方法について検討する。</p> <p>第3回：調べた方法を用いて衣服材料の分別を行い、簡便な方法を開発する。</p> <p>第4回：衣服素材の吸湿・吸水性の測定方法について実験方法を検討する。</p> <p>第5回：衣服素材の吸水性・吸湿性に関する測定を行う。</p> <p>第6回：衣服素材の吸湿・吸水性能が快適性に及ぼす影響について議論する。</p> <p>第7回：官能検査の方法について学び、実践により習得する。</p> <p>第8回：動作に伴う身体の伸縮について測定し、快適な衣服設計について検討する。</p> <p>第9回：皮膚への刺激が健康に及ぼす影響について測定法を検討する。</p> <p>第10回：皮膚への刺激が健康に及ぼす影響について実験と評価を行う。</p> <p>第11回：着用快適性の測定方法について調査する。</p> <p>第12回：着用快適性測定法の目的と適用範囲について理解し、熱水分移動特性を測定する。</p> <p>第13回：加圧時の着用快適感を官能検査によって測定・評価する。</p> <p>第14回：加圧時の着用快適感の生理反応を測定し、官能検査との対応について検討する。</p> <p>第15回：総括：快適な衣生活のための評価方法について、議論し、総括を行う。</p>			
<p>準備学習（予習・復習等）</p> <p>予習：実験内容について理解しておく。（30分）</p> <p>復習：実験レポートの作成と返却後のレポートの内容の理解と修正。（作成3時間）</p>			
<p>テキスト</p> <p>内容に応じて配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>内容に応じて指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>評価割合は、実験への参加態度40%、実験レポート60%とする。</p>			

授業科目名：被服構成学実験	単位数：1単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：高水伸子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服構成学実験では立体裁断を通して、布地の経糸と緯糸がどのようにシルエットの保持に影響しているかを調べる。主に特殊素材(伸びる布、垂れる布、地の目が動きやすい布など)を用いて、実際に着用できるアイテムのトワールを作成することを目標に、適切な構造線をさぐり、デザイン線を決めてパターンを完成させ、同時に衣服を立体的に評価できる応用力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>審美性と機能性を兼ね備えた衣服制作の技術を研鑽し、造形学服飾美術分野の学位授与方針に基づき創作の専門家として産業や舞台美術などの方面で貢献できる力を修得する。基本的な立体裁断技術は既に修得していることを前提とし、授業は夏期休暇中に継続して4日間集中とする(日時は相談の上で最終決定する)。必要な道具は、各自で持参すること(シルクピン、ピンクッション、製図用筆記具、方眼定規、裁ちばさみ、しつけ糸、手縫い用針)</p>			
<p>授業計画 通常授業15回分を4日に分け、各日10:00~16:00(昼食休憩50分を含む)に実施する。</p> <p>第1日 特殊素材①(ニット地) 第1回目 伸びる布の例として、特殊素材(ニット地)を取り上げる。経方向にも緯方向にも伸縮性があるため織物素材と扱い方が異なることを学ぶ。よこ段のわかりやすいニット地を用いて、トワールを作成する。</p> <p>第2日 特殊素材①(ニット地) 第2回目 第1回目の内容を継続して行う。各自、トワールの問題点を発見し、その解決方法を考えて修正し、完成パターンを作成する。</p> <p>第3日 特殊素材②(ジョーゼット) 第1回目 垂れやすい布の例として、ジョーゼットを取り上げる。経糸と緯糸が滑りやすい性質があるため、独特の胸ぐせ処理や、経時変化後の修正方法などを中心に学ぶ。まずはシーチングで土台となるトワールを作成し、その上に課題素材をのせて立体裁断し、トワールを作成する。</p> <p>第4日 特殊素材②(ジョーゼット) 第2回目 第1回目の内容を継続して行う。各自、トワールの問題点を発見し、その解決方法を考えて修正し、完成パターンを作成する。</p>			
<p>準備学習：予習10分(授業用布の下処理) 復習(課題完成) 1時間、・ノート整理30分</p>			
<p>テキスト：なし</p>			
<p>参考書・参考資料等：なし</p>			
<p>学生に対する評価：復習時間には授業時間で作成しきれなかったトワールを完成させること。課題への取り組みの姿勢とできばえ80点。諮問に対する受け答えやノートなどの平常点20点。</p>			

授業科目名：アパレル設計学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：山田民子
授業の到達目標及びテーマ アパレルCAD， 着装シミュレーションシステムを構築できる能力を養う。			
授業の概要 アパレルの企画・設計工程で必要とされる、アパレルCAD,着装シミュレーションシステムを構築できる能力を養うことを目的とする。人体を最小の面積の布で覆う原型について構造を明らかにする。さらに2次元のパターンと3次元の衣服との対応関係について学ぶ。具体的には、衣服をコンピュータ内で制作しその形態を確認する。			
授業計画 第1回：服飾分野の変遷について・家政大学の歴史から学ぶもの 第2回：各種原型についての解説・方式による原型の違い 第3回：3次元計測システムのデータの活用方法・2,3次元CADの活用方法 第4回：CADによる原型の作図 (Skirt 原型) 第5回：CADによる原型の作図 (Skirt 原型作図完成) 第6回：3次元CADによる着装シミュレーションと検討 第7回：CADによる原型の作図 (Top 原型) 第8回：CADによる原型の作図 (Top 原型作図完成) 第9回：3次元CADによる着装シミュレーションと検討 第10回：CADによる原型の作図 (Pants 原型) 第11回：CADによる原型の作図 (Pants 原型作図完成) 第12回：3次元CADによる着装シミュレーションと検討 第13回：機能的なゆとりの入れ方 第14回：まとめ レポート作成 第15回：まとめ レポート完成・提出			
準備学習： 各種原型を理解し、作図できるようにしておくこと。			
テキスト： プリント			
参考書・参考資料等： 未定			
学生に対する評価： 平常点20%，小課題30%，レポート50%により評価する。			

授業科目名： アパレル設計学演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：山田民子
授業の到達目標及びテーマ アパレル製品について評価を行うことができ、さらに再構築できる能力を養う。			
授業の概要 アパレル企画によるサイズ、デザインにしたがって量産に適した科学的、合理的なパターンメイキングを理解する。アパレル製品について評価を行い、より良いパターンメイキングができる。			
授業計画 第1回：被服設計の基本となる人体の構造と、運動による体形の変化について学ぶ 第2回：アパレルサイズについて 第3回：アパレル生産について 第4回：アパレル製品について研究する (シャツ) 第5回：アパレル製品について研究する (ブラウス) 第6回：アイテム別シルエット・スローパーの研究 第7回：アイテム別シルエット・スローパーの作成 (シャツ) 第8回：アイテム別シルエット・スローパーの作成 (ブラウス) 第9回：アパレル製品のパターンメイキング 第10回：アパレル製品のパターンメイキング 第11回：アパレルCADによる着装シミュレーション 第12回：アパレルCADによる着装シミュレーション 第13回：評価 第14回：まとめ・レポート作成・提出 第15回：アパレル生産の目指すもの・履修者による討論			
準備学習： 工業用パターンについて調べておくこと。(シャツ、ブラウス)			
テキスト： 特になし			
参考書・参考資料等： アパレル設計論、アパレル生産論			
学生に対する評価： 平常点20%，小課題30%，レポート50%により評価する。			

授業科目名： アパレル設計学演習Ⅱ	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：山田民子
授業の到達目標及びテーマ アパレル製品（ジャケット、ワンピース、パンツ等）について評価を行うことができ、さらに再構築できる能力を養う。			
授業の概要 アパレル企画によるサイズ、デザインにしたがって量産に適した、科学的、合理的なパターンメイキングを理解する。アパレル製品（ジャケット、ワンピース等）について評価を行い、より良いパターンメイキングができる。			
授業計画 第1回：アパレル製品について、研究するアイテムを選ぶ 第2回：アイテム別アパレル製品についての研究を行う（ジャケット） 第3回：アイテム別アパレル製品についての研究を行う（ワンピース） 第4回：アイテム別アパレル製品についての研究を行う（パンツ） 第5回：アイテム別シルエット・スローパーの作図 第6回：アイテム別シルエット・スローパーの作図完成 第7回：アパレル製品のパターンメイキング 第8回：アパレル製品のパターンメイキング 第9回：アパレル製品のパターンメイキング 第10回：アパレル製品のパターンメイキング 第11回：アパレルCADによる着装シミュレーション 第12回：アパレルCADによる着装シミュレーション 第13回：評価 第14回：まとめ・レポート作成・提出 第15回：アパレル生産の目指すもの・履修者による討論			
準備学習： 工業用パターンについて調べておくこと。（ジャケット、ワンピース、パンツ）			
テキスト： 特になし			
参考書・参考資料等： アパレル設計論、アパレル生産論			
学生に対する評価： 平常点20%，小課題30%，レポート50%により評価する			

授業科目名：和服造形学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：寺田恭子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>・明治時代以降の和服の変遷を把握し、現在の和服について理解する能力を養うことができる。和服文化</p>			
<p>授業の概要</p> <p>私達の祖先は季節感豊かな四季に恵まれた風土の中で、季節ごとに最も適した生地、色彩、紋様の衣服を身につけてきた。和服の持つ美しさ、合理性、機能性、また和服独自の構成方法などはヨーロッパ世界に強い印象を与え、ファッションデザインに大きな影響を与えてきた。</p> <p>これらの和服の伝統的な流れに着目し、明治時代以降に普及した女物について、社会的、経済的な影響を受けながら流動的に変化してきた様子を文献や標本、映像を通して学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：概要</p> <p>第2回：和服の変遷（明治、大正）</p> <p>第3回：和服の変遷（昭和、平成）</p> <p>第4回：和服の種類と格</p> <p>第5回：和服地の種類と季節</p> <p>第6回：染織 全国にある染色の産地（染め - 1）</p> <p>第7回：染織 全国にある染色の産地（染め - 2）</p> <p>第8回：染織 全国にある染織の産地（織り - 1）</p> <p>第9回：染織 全国にある染織の産地（織り - 2）</p> <p>第10回：紋様の種類と意味、模様付けについて</p> <p>第11回：和服の構成について（長着、長襦袢など）</p> <p>第12回：和服の構成について（羽織ものなど）</p> <p>第13回：和服の構成について（帯など）</p> <p>第14回：和服の着装方法について</p> <p>第15回：まとめ、解説</p>			
<p>準備学習：</p> <p>日本服飾文化史、和服論を学んでおく。</p>			
<p>テキスト：プリント</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>渡辺学園裁縫雛形コレクション・雛形標本</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点20%、小課題30%、レポート50%</p>			

授業科目名：和服造形学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：寺田恭子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>・多種多様な和服構成技術を習得し、和服の様々な種類別による構成方法を理解し応用することができる。和服製作</p>			
<p>授業の概要</p> <p>和服造形学特論で学んだ理論をより深く理解するために、文献や標本をもとに、多種多様な構成技術やその応用について具体的に演習を行う。</p> <p>長い歴史の中で完成された和服は、創造的、文化的価値が高く、種類や格、素材や構成法など多くの種類がある。長着や長襦袢や羽織などの種類別、絵羽模様や付け下げや小紋などの格別、絹や毛織物や木綿や麻などの素材別、袷や単衣などの構成別などの造形方法を理解する。また和服の着装を体験して、体形と寸法、和服独自の直線を主体とする構成を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：概要</p> <p>第2回：和服の種類別構成方法の解説</p> <p>第3回：長着袖の構成について（袷、単衣、素材別）その1</p> <p>第4回：長着袖の構成について（袷、単衣、素材別）その2</p> <p>第5回：長着身頃の構成について（袷、単衣、素材別）その1</p> <p>第6回：長着身頃の構成について（袷・単衣・素材別）その2</p> <p>第7回：長着衿の構成について（袷・単衣・素材別）その1</p> <p>第8回：長着衿の構成について（袷・単衣・素材別）その2</p> <p>第9回：絵羽模様の構成について</p> <p>第10回：帯の構成について</p> <p>第11回：着装をして体形と寸法、着心地の評価をする（長襦袢と長着）</p> <p>第12回：着装をして体形と寸法、着心地の評価をする（長着・帯）</p> <p>第13回：体形に適した寸法設定について</p> <p>第14回：プレタの和服について評価をする</p> <p>第15回：まとめと解説</p>			
<p>準備学習：</p> <p>和服造形学特論を復習しておく。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度指示をする</p>			
<p>学生に対する評価：平常点30%、演習課題70%を総合して評価する。</p>			

授業科目名：服飾工芸演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：大塚有里
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>刺繍、編物、レースの基礎的な知識と技法を理解しながら、その特性を活かした小物やサンプラー製作を行い、多様な装飾の表現方法を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>世界には独自の様式を持つ多くの服飾工芸が存在するが、刺繍、編物、レースの中から代表的なものを紹介する。その技法に適した基布、糸、針、道具を操り、ステッチや編み目等を体験し、小物やサンプラー製作を行う中で、服飾等におけるその多様な装飾の表現方法を学ぶ。その後、それらを応用して発展させたものづくりを期待したい。また、デザイナーのコレクションの中に服飾工芸的要素がどのように表現されているのかも探っていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：刺繍について（欧風刺繍と日本刺繍）</p> <p>第2回：線や点を表すステッチ</p> <p>第3回：面を表すステッチ、その他のステッチ</p> <p>第4回：装飾材料（ミラー、スパングル、ビーズ等）の留め方</p> <p>第5回：刺繍サンプラーをまとめる</p> <p>第6回：レースについて（刺繍からレースへ）</p> <p>第7回：かぎ針、シャトル、シートのいずれかを使用したレース小物の自由製作</p> <p>第8回：かぎ針、シャトル、シートのいずれかを使用したレース小物の仕上げ方法</p> <p>第9回：レース作品をまとめる</p> <p>第10回：編物について、JIS記号について</p> <p>第11回：素材作り（糸紡ぎ等）</p> <p>第12回：ハンドウォーマー製作（紡ぎ糸または市販糸でのゲージ、作り目）</p> <p>第13回：ハンドウォーマー製作（かぎ針編みの装飾、仕上方法）</p> <p>第14回：編物作品をまとめる</p> <p>第15回：コレクションにみるデザイナーの作品について、発表、まとめ</p>			
<p>準備学習：服飾工芸関連の書籍を読む。内容に応じて提示する。</p>			
<p>テキスト：特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：内容に応じてプリント等を配布する。または適宜、紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：発表を含む学習態度50%、提出物（作品、レポート）50%</p>			

授業科目名：服飾文化史特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：沢尾 絵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>服飾史研究における資料の多様性について理解を深め、資料収集・分析・活用の方法を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>服飾・染織に関わる文化史研究では扱う資料の範囲が多岐にわたる。本講義では江戸時代の小袖意匠と染織技法に注目し、現存する実物資料、版本、絵画、技法書・教養書・小説などの文献、同時代の工芸品を研究資料として、これらの調査・分析方法について論じる。また、各資料研究から得られる事象を服飾史の視点からどのように位置づけることができるのか、併せて明確にしていく。履修者は、資料の分析を試行することで研究の手法を学び、服飾文化研究への理解を深める。また、展覧会見学を通して実物資料の活用についても考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：江戸時代の服飾資料の範囲と先行研究</p> <p>第2回：小袖服飾の変遷に見る近世の染織技法と社会的背景</p> <p>第3回：小袖服飾研究の特徴と変遷</p> <p>第4回：江戸時代の絵画資料と小袖服飾</p> <p>第5回：初期風俗画に描かれる文様の概観</p> <p>第6回：江戸時代の出版文化と服飾資料</p> <p>第7回：小袖雛形本①小袖雛形本の特徴と研究課題</p> <p>第8回：小袖雛形本②文様研究</p> <p>第9回：小袖雛形本③染織技法</p> <p>第10回：文様の比較検討①初期風俗画と小袖雛形本</p> <p>第11回：文様の比較検討②桜の文様と工芸品</p> <p>第12回：文様の比較検討③服飾に見る桜の文様</p> <p>第13回：染色技法書研究</p> <p>第14回：呉服史料研究</p> <p>第15回：総括</p>			
<p>準備学習：</p> <p>配布する資料を事前に読んでおく。テーマにより、指定された箇所については調査しておく。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>随時紹介する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業への取り組み・発表（40%） レポート（60%）</p>			

授業科目名：服飾文化史特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：能澤慧子
授業の到達目標及びテーマ 服飾文化に関する資料の範囲について理解し、資料検索・探索・収集の方法を身につける。			
授業の概要 服飾文化史の研究に用いる文字資料と図像資料について、その種類や活用法を幅広く身につけることを目的とする。文字資料としてはヨーロッパ中世から現代までの日記、書簡、会計簿類、小説、新聞、雑誌、など、図像資料としては同じ時代範囲の写本、タペストリー、刺繍、版画、ファッション・ブックなどを取り上げ、それぞれの製作された時代とのかかわりの中で、表現の意味を論じる。また実物資料や図像資料の研究の意味で、随時、関連の展覧会見学を行う。			
授業計画 第1回：写本に表現された服装 「ベリー大公の華麗な時祷書」の春夏 第2回：写本に表現された服装 「ベリー大公の華麗な時祷書」の秋冬 第3回：タペストリーに表現された服装 「貴婦人と一角獣」 第4回：タペストリーに表現された服装 「一角獣狩」 第5回：タペストリーに表現された服装 17世紀のタペストリー 第6回：刺繍 その表現と技術 第7回：刺繍 女性の生活誌の中で 第8回：祭壇画に表現された服装 イタリアの作品を中心に 第9回：祭壇画に表現された服装 ドイツ、フランドルの作品を中心に 第10回：タブローに表現された服装 18世紀イギリスの作品を中心に 第11回：タブローに表現された服装 18世紀フランスの作品を中心に 第12回：版画に表現された服装 第13回：雑誌・新聞の挿絵に表現された服装 第14回：ファッション・ブックの挿絵に表現された服装 18. 19世紀 第15回：ファッション・ブックの挿絵に表現された服装 20世紀			
準備学習： 授業毎に紹介・配布する次回授業用資料を通読する。			
テキスト： 特になし。			
参考書・参考資料等： 参考書は随時紹介する。			
学生に対する評価： レポート (60%)、教場での発表 (40%)			

授業科目名：服飾文化史演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：沢尾 絵
授業の到達目標及びテーマ 服飾文化史研究に必要な染織品に関する知識を修得し、資料選択・研究・分析の方法を身につける。			
授業の概要 日本の服飾史を支えてきた染織品には、アジアをはじめとする諸外国・地域と共通する技法が多く存在する。ここではまず、アジアという視点から染織に関する基礎的事項を確認し、改めて日本の染織品の特質を理解する。後半は特に日本の江戸時代に着目し、雛形本や教養書・解説書等を読み進め、当該期の服飾文化を探る資料の多様性や方法論を学ぶ。履修者はあらかじめ担当箇所の翻訳・解説の解題を準備し、これをもとに発表形式で進めていく。また、展覧会見学を通じて実物資料にも数多く触れ、服飾・染織史的な視点から考察する方法を身につける。			
授業計画 第1回：イントロダクション—服飾文化史研究の資料と捉え方— 第2回：文献購読①素材（皮、毛、絹） 第3回：文献購読②素材（木綿、麻、樹皮、その他） 第4回：文献購読③織物（平織、斜文織、縺子織） 第5回：文献購読④織物（浮紋織、二重織、錦、緞子など） 第6回：文献購読⑤染物（藍染、絞り染、緋） 第7回：文献購読⑥染物（蠟防染・糊防染） 第8回：文献購読⑦小袖雛形本（文様と色彩） 第9回：文献購読⑧小袖雛形本（染織技法） 第10回：文献購読⑨染色技法書（染色名称） 第11回：文献購読⑩染色技法書（技法） 第12回：文献購読⑪萬金産業袋（染織品の種類） 第13回：文献購読⑫萬金産業袋（染織品の流通） 第14回：文献購読⑬訓蒙図彙（江戸時代の衣生活） 第15回：文献購読⑭訓蒙図彙（江戸時代女性の嗜好） ※文献購読①～⑥では英文、⑦～⑭では かな文字を扱う。			
準備学習： 事前に配布する文献を読んで内容をまとめ、解題を作る。			
テキスト：特になし			
参考書・参考資料等： 随時提示する			
学生に対する評価： 平常授業での取り組み70%、レポート30%			

授業科目名：服飾文化史演習Ⅱ	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：沢尾 絵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>服飾文化史の研究方法を修得する。また、研究内容を客観的に評価し、自身の研究に応用できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本およびアジアの服飾・染織文化史に関する論文の講読を行う。履修者は大学および博物館・美術館の紀要、学会誌掲載論文を講読し、これをまとめて発表および議論を行う。その過程において、研究テーマの設定、研究方法、資料の検証、論文の構成、研究論文に適した表現方法などを修得していく。また最新の研究動向を自ら探索し、客観的な評価を行うことで、自身の研究に応用する力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：研究論文の種類と特質、選定の方法</p> <p>第2回：論文講読①大学紀要 先行研究とテーマ設定</p> <p>第3回：論文講読②大学紀要 研究方法（資料）と論文構成</p> <p>第4回：論文講読③大学紀要 類似研究と手法の比較</p> <p>第5回：論文講読④美術館・博物館紀要 先行研究とテーマ設定</p> <p>第6回：論文講読⑤美術館・博物館紀要 研究方法（資料）と論文構成</p> <p>第7回：論文講読⑥美術館・博物館紀要 類似研究と手法の比較</p> <p>第8回：論文講読⑦学会誌掲載論文1－1 研究内容の紹介</p> <p>第9回：論文講読⑧学会誌掲載論文1－2 研究内容の検証・評価</p> <p>第10回：論文講読⑨学会誌掲載論文2－1 研究内容の紹介</p> <p>第11回：論文講読⑩学会誌掲載論文2－2 研究内容の検証・評価</p> <p>第12回：論文講読⑪学会誌掲載論文3－1 研究内容の紹介</p> <p>第13回：論文講読⑫学会誌掲載論文3－2 研究内容の検証・評価</p> <p>第14回：論文講読⑬テーマ別 学術論文の内容紹介・検証・評価1)</p> <p>第15回：論文講読⑭テーマ別 学術論文の内容紹介・検証・評価2)</p>			
<p>準備学習：</p> <p>関連する研究論文および資料の収集・分析を行い、解題を作る。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常授業での課題（準備・発表）70%、まとめのレポート30%</p>			

授業科目名：服飾文化史演習Ⅱ	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：能澤慧子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 服飾史分野の先行研究を講読し、論文の構成、資料の範囲、表現方法などを身につける。 2. 専門書を通読し、その概要や主旨を理解し、評価することができる。 3. 服飾史実物資料の意義を理解できる。 4. 1. 2. 3について、文章・口頭表現ができる。 			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の服飾史関係学会誌掲載論文や欧文研究書を購読する。 2. 各自が選んだ専門書の解題を行う。 3. 服飾史実物資料の調査・研究の方法を、実際の資料を手にとって、また関連の展覧会見学を通じて学ぶ。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：服飾文化学会、国際服飾学会、日本家政学会などの掲載論文の講読。（構成）</p> <p>第2回：服飾文化学会、国際服飾学会、日本家政学会などの掲載論文の講読。（資料）</p> <p>第3回：服飾文化学会、国際服飾学会、日本家政学会などの掲載論文の講読。（表現）</p> <p>第4回：Costume Society of America, Costume Society of UK 掲載論文の講読。（構成）</p> <p>第5回：Costume Society of America, Costume Society of UK 掲載論文の講読。（資料）</p> <p>第6回：Costume Society of America, Costume Society of UK 掲載論文の講読。（表現）</p> <p>第7回：専門書の解題（図書を選択）</p> <p>第8回：解題作成要領・作成</p> <p>第9回：解題の発表と評価</p> <p>第10回：服飾史実物資料とその調査・研究について</p> <p>第11回：服飾史実物資料の調査（ヨーロッパ19世紀前半の資料）</p> <p>第12回：調査結果のまとめ（ヨーロッパ19世紀前半の資料）</p> <p>第13回：服飾史実物資料の調査（ヨーロッパ19世紀後半の資料）</p> <p>第14回：調査結果のまとめ（ヨーロッパ19世紀後半の資料）</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>			
<p>準備学習：</p> <p>講読する資料を事前に通読し、概要をまとめたレポートを作成する。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>随時紹介する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常授業での課題70%、レポート30%</p>			

授業科目名：染織史特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：長崎巖
授業の到達目標及びテーマ 日本の染織の流れを文明史的に理解することを目標とする。			
授業の概要 日本の染織及び服飾の歴史をたどりながら、染織・服飾の一般的な発展プロセスと原理を学び、同時にその文化史的な意味について考える。授業は、原則的には染織技法や衣服の出現から、時代によるそれらの変化と発展を時系列に追ってゆくが、用途に視点を絞った観点や人の美意識に焦点を絞った観点からの考察にも重きを置く。			
授業計画 第1回：「染織」という言葉とその内容 第2回：織りの起源 第3回：染めの起源 第4回：衣服の起源 第5回：織りの発達とその背景 第6回：染めの発達とその背景 第7回：時代と価値観・美意識 第8回：奈良時代の染織 第9回：平安時代の服飾と美 第10回：武家の価値観と染織 第11回：裂（きれ）と体、衣服と体 第12回：色の機能と働き 第13回：模様の世界 第14回：庶民の染織 第15回：身分と染織			
準備学習： 前回の授業内容につき、質問に答えられるようにしておく。			
テキスト： 『きものと裂のことば案内』小学館2005年 長崎 巖			
参考書・参考資料等： 特になし。			
学生に対する評価： 出席50%、演習課題20%、最終レポート30%			

授業科目名： ファッション情報学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：松木孝幸
授業の到達目標及びテーマ ・データベースと統計用語の理解と統計処理の習得			
授業の概要 服飾美術分野の研究を遂行してゆくために必要となる情報あるいはデータの取り扱い方、得られたデータに対する統計学の利用（統計処理）あるいは方法論について述べる。具体的には、データをデータベースに格納する方法と利用方法、多変量解析における重回帰分析のやり方を学び、多くの変数に依存したデータの解析方法を学ぶ。さらにパソコン上ではExcel、SPSSなどを利用してこれらの方法論がどのように実現されるかを学び、具体例を用いてこの分野に必要な知識を習得する。			
授業計画 第1回：服飾美術分野におけるデータベースの活用法とデータの統計処理（ガイダンス） 第2回：服飾美術分野のデータの種類と作成ツールについて 第3回：データに対するメタデータ（属性）の付与の仕方 第4回：データベースについて 第5回：テーブルからのレコードの抽出 第6回：複数のテーブルの作成とそれらの関係（リレーショナルデータベース） 第7回：データの統計処理について 第8回：データの分析と可視化 第9回：正規分布 第10回：標本分布 第11回：2変数相関（多変量解析） 第12回：重回帰分析 第13回：各種検定（t検定とF検定）について 第14回：総合評価 第15回：まとめと解説			
準備学習： 基本的な用語操作については承知しておくこと。			
テキスト： ハンドアウト			
参考書・参考資料等： 特になし			
学生に対する評価： 平常点と報告書			

授業科目名： ファッション情報学演習 I	単位数：2単位	選択 (高専(家庭))	担当教員名：松木孝幸
授業の到達目標及びテーマ PCにおける標準的なオフィスソフト製品が使いこなせるようにする。			
授業の概要 近年ファッションに関する研究・教育には、多様な関係資料を上手に活用することがのぞまれるようになった。基本的なワープロや表計算ソフトはもちろんのこと発表の現場ではプレゼンソフトも使用できるようになっていることが望ましい。この授業では、服飾美術分野のデータをこれらのソフトを用いて表現や報告が作成できる技術を身に着ける演習を行う。			
授業計画 第1回：MS-Wordの基礎知識 第2回：文字の入力・文書の作成 第3回：表の作成・文書の編集 第4回：表現力をアップする機能 第5回：図形や図表を使った文書の作成 第6回：差し込み印刷 第7回：Excelの基礎知識 第8回：データの入力・表の作成 第9回：複数シートの操作・表の印刷 第10回：表の印刷・データベースの利用 第11回：便利な機能 第12回：PowerPointの基礎知識 第13回：スライドのレイアウト・デザインの設定 第14回：ワードアート・SmartArtの利用 第15回：総合評価・まとめと解説			
準備学習： 標準的なオフィスソフトの概念を理解していることが望ましい。			
テキスト： ハンドアウト			
参考書・参考資料等：特になし			
学生に対する評価： 平常点と課題			

授業科目名： ファッション情報学演習 I	単位数：2単位	選択 (高専(家庭))	担当教員名：田中早苗
授業の到達目標及びテーマ 動画編集ソフトウェアを使って家庭科の動画教材を作成できる			
授業の概要 中学・高等学校の家庭科において被服や調理実習での動画教材の活用実践と効果が報告されている。受講生は小学校家庭科程度の製作教材をサンプルとして動画の撮影と編集方法を学び、動画教材を作成して教材の評価を行なう。また、型紙学習のためのパターンスキャナの使用方法和2D、3DCADソフトウェアのオペレーションを体験する。			
授業計画 第1回：ICT活用教材の概要 第2回：動画教材作成の流れ 第3回：動画編集に必要なPC環境、ソフトウェアの準備 第4回：サンプルファイルによる動画編集の練習 第5回：動画教材の作成 題材設定、教材としての留意点、 第6回：動画教材の作成 撮影機材の種類と特長、シナリオ作成 第7回：動画教材の作成 動画の撮影実習① 第8回：動画教材の作成 動画の撮影実習② 第9回：動画教材の作成 動画編集① 第10回：動画教材の作成 動画編集② 第11回：動画教材の評価 第12回：パターンスキャナによるデータ取り込み 第13回：パターンデータのトレース 第14回：アパレルCADによるデータ加工 第15回：仮想縫製ソフトによる3D表示、まとめ			
準備学習： ディレクトリ階層を理解しファイル操作ができるようにしておく。			
テキスト： 必要に応じてプリントを配布			
参考書・参考資料等： 教員が適宜指示する。			
学生に対する評価： 平常点20%、動画教材制作物40%、レポート40%			

授業科目名： ファッション情報学演習Ⅱ	単位数：2単位	選択 (高専(家庭))	担当教員名：松木孝幸
授業の到達目標及びテーマ PCからデータベースに接続して、抽出したデータをブラウザ上で閲覧できるようにする。			
授業の概要 ファッションに関する研究・教育には、多様な関係資料の活用が不可欠であり、近年ではそのデータベース化が強く望まれている。この授業では、服飾美術分野のデータを実際に扱って、ネットワークを利用したデータベースの利用法を学ぶ。今日、ネットワークは、最も光の当てられている分野である。中でも、時間と場所を超えて情報を共有できるネットワークサービスの利用に人々の関心が集まり、ユビキタス社会という言葉も人々の心を捉えている。一方、データを素早く検索できるデータベースも現代には無くてはならない情報技術である。必要に応じて、データベース内のデータをブラウザに表示する演習も行う。			
授業計画 第1回：ネットワークサービスと服飾関連情報の共有・発信（ガイダンス） 第2回：ネットワークを経由したコンピュータの操作（リモートデスクトップ、VNC） 第3回：ネットワークサービスの仕組み（クライアント・サーバ形式） 第4回：ネットワークによる服飾関連情報の共有（Webサーバによるサーバ資源の利用） 第5回：データベースについて 第6回：キーワードによるレコードの検索 第7回：ネットワークを介したデータベースへのアクセス 第8回：LinuxあるいはWindows OS上での実際の演習（テーブルの作成） 第9回：テーブルからの服飾関連レコードの抽出 第10回：複数のテーブルの作成とそれらの関係（リレーショナルデータベース） 第11回：ネットワークからのテーブルへのアクセス方法 第12回：服飾関連検索ホームページの作成1（HTMLによる外枠の作成） 第13回：服飾関連検索ホームページの作成2（ODBCによるデータベースとの接続） 第14回：総合評価 第15回：まとめと解説			
準備学習： 標準的なオフィスソフトの使い方ができるようになっていることが望ましい。			
テキスト： ハンドアウト			
参考書・参考資料等：特になし			
学生に対する評価： 平常点と課題			

授業科目名： ファッション情報学演習Ⅱ	単位数：2単位	選択 (高専(家庭))	担当教員名：田中早苗
授業の到達目標及びテーマ ソフトウェアを使ったファッション情報の基礎的なデータマイニングができる			
授業の概要 衣服やファッションはイメージや形で表されたものを文字や記述に置き換えて表される。これをデータベース化する場合に的確な属性で分類しタグ付けする必要がある。ファッション情報をサンプルとすることによって受講生に理解しやすく服飾研究に活かせるデータマイニングの演習を行なう。			
授業計画 第1回：データマイニングとは 第2回：さまざまなデータ構造 第3回：基本統計量の計算 第4回：ソフトウェアを使った演習(1) 第5回：関連の考え方と相関係数の求め方 第6回：ソフトウェアを使った演習(2) 第7回：クロス集計表と散布図の作成 第8回：ソフトウェアを使った演習(3) 第9回：テキストマイニング、情報抽出 第10回：ソフトウェアを使った演習(4) 第11回：テキストマイニング、自然言語処理 第12回：ソフトウェアを使った演習(5) 第13回：テキストマイニング、クラスタリング 第14回：ソフトウェアを使った演習(6) 第15回：総括			
準備学習： Excelでデータ入力と表の作成ができるようにしておく。			
テキスト： 必要に応じてプリントを配布			
参考書・参考資料等： 教員が適宜指示する。			
学生に対する評価： 平常点20%、レポート80%、			

授業科目名：服飾デザイン特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：石田恭嗣
授業の到達目標及びテーマ 衣服をデザインするときにさまざまな視点から考察することができる。			
授業の概要 デザインを考える上で時代性や社会性といった外的要因は流行との関係において重要で、それらを考慮しながら衣服のデザインは行われる。また、衣服は人体を覆うものであることから人体との関係についても考える必要がある。衣服は外部環境と内部環境（身体）の境界に存在し、さまざまな目的を達成するための機能や装飾、デザインが生まれた。 ここでは、さまざまな時代で流行するデザインや建築様式、芸術との関係から服飾デザインを造形的観点から考察する。また、デザイナーの表現から服飾デザインに対する考え方などについて学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：古代エジプト、古代ギリシャ、古代ローマ 第3回：ビザンチン、ロマネスク 第4回：ルネサンス 第5回：バロック、ロココ、新古典主義 第6回：ビクトリア様式 第7回：アール・ヌーボー 第8回：アール・デコ 第9回：美術と被服 バウハウス 第10回：美術と被服 現代美術 第11回：ファッションデザイナーの試み フルチュニ、ポワレ、ヴィオネなど 第12回：現代のファッションデザイナーの試み 三宅一生 第13回：現代のファッションデザイナーの試み 川久保玲 第14回：現代のファッションデザイナーの試み 山本耀司 第15回：まとめ			
準備学習： 服飾関連、デザイン史についての書籍を読む。			
テキスト： 特になし			
参考書・参考資料等： 適宜指示、または配布する。			
学生に対する評価： レポート・意見発表等で総合的に評価する。			

授業科目名：服飾デザイン演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：石田恭嗣
授業の到達目標及びテーマ 造形の基本要素をテーマとするオブジェ制作を通して衣服の効果的な表現方法を学ぶ。			
授業の概要 現在ではファストファッションが社会を席卷しているが、経済性、ファッション性などの実用的な観点からだけでなく、造形的な側面から衣服について考えることでより質の高い衣服のデザインを行うことができる。衣服を造形の基本要素である形、色、テクスチャーに分解し、各要素が衣服と身体、衣服と環境のなかでどのように作用または関係しているのかを考察する。そして、それらを総合することで均衡のとれた質の高いデザインが可能になることを学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：造形的基本的要素、構成形式について 第3回：色をメインテーマとしたオブジェ制作 イメージと色 第4回：色をメインテーマとしたオブジェ制作 色の特性の研究 第5回：色をメインテーマとしたオブジェ制作 色と衣服の関係性 第6回：プレゼンテーション 第7回：テクスチャーをテーマとしたオブジェ制作 イメージとテクスチャー 第8回：テクスチャーをテーマとしたオブジェ制作 テクスチャーの特性の研究 第9回：テクスチャーをテーマとしたオブジェ制作 テクスチャーと衣服の関係性 第10回：プレゼンテーション 第11回：形をテーマとしたオブジェ制作 イメージと形 第12回：形をテーマとしたオブジェ制作 形の特性の研究 第13回：形をテーマとしたオブジェ制作 形と衣服の関係性 第14回：プレゼンテーション 第15回：まとめ			
準備学習： 服飾史で扱われる代表的な衣服を造形的観点から観察する。			
テキスト： 特になし			
参考書・参考資料等： 適宜指示、または配布する。			
学生に対する評価： 課題や制作態度、プレゼンテーション等で総合的に評価する。			

授業科目名：色彩表現論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：石田恭嗣
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服や被服を取り巻くさまざまな事象との関連において色彩表現の役割やはたらきについて学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日常生活のなかで色は身近な存在であるため色の本質について考えることは少ない。また、色は誰もが自由に扱うことができることから色に関する知識がなくても問題視されることはない。</p> <p>しかし、色の知識を身につけ、それらを応用、発展させることで楽しく、いきいきとした生活や自分自身をより美しく見せるなど生活の質を高めることが可能になる。</p> <p>ここでは、色彩学の基本からはじめ、衣服を中心に人から環境、個人から社会などさまざまな視点から色の役割やはたらきなどについて講述する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：ニュートン</p> <p>第3回：ゲーテ</p> <p>第4回：古典的な色彩表現</p> <p>第5回：シュプルール、ルードなどの色彩調和論</p> <p>第6回：被服とパーソナルカラー</p> <p>第7回：被服とトレンドカラー</p> <p>第8回：被服と化粧</p> <p>第9回：被服と民族</p> <p>第10回：被服と環境</p> <p>第11回：ファッションとしての色彩表現 プレタポルテ・コレクションにおける色彩表現</p> <p>第12回：ファッションとしての色彩表現 被服とディスプレイ</p> <p>第13回：ファッションとしての色彩表現 ブランドイメージ</p> <p>第14回：ファッションとしての色彩表現 広告、Webなど</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>準備学習：</p> <p>色彩学関連の書籍を読む。</p>			
<p>テキスト：特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>適宜指示、または配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポート・意見発表等で総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 服飾デザイン表現演習	単位数： 2 単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名： 桃木 美恵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>衣服のフォルムとコーディネートを絵で表現する技術を習得した上で、ファッションデザイン画の表現を更に広げて、トレンドを分析し調べる事によりファッションデザインのテーマ・メッセージを伝える視覚伝達力を高めることができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ファッションデザイン画の表現方法として、人体プロポーション・クロージング・彩色・マテリアル等、服の構造等の基本を把握した上で、アイテムコーディネートを学ぶ。更に、トレンド分析し調べる事によりファッションデザインの可能性を探る。ファッションイメージを具体的に表現する技術を身に付け、感性をデザインへと展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業内容説明 人体プロポーションの描き方 正面向き直立 ポーズ及びクロージング</p> <p>第2回： 人体プロポーションの描き方 正面向き片脚重心ポーズ及びクロージング</p> <p>第3回： 人体プロポーションの描き方 斜め向き向き1 ポーズ及びクロージング</p> <p>第4回： 人体プロポーションの描き方 斜め向き向き2 ポーズ及びクロージング</p> <p>第5回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 1</p> <p>第6回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 2</p> <p>第7回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 3</p> <p>第8回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 4</p> <p>第9回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 5</p> <p>第10回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 6</p> <p>第11回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 7</p> <p>第12回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 8</p> <p>第13回：トレンド分析した資料の纏め、及び構成を試作する</p> <p>第14回：トレンド分析した資料をMAPとして作品制作 する</p> <p>第15回：トレンド分析 デザイン傾向を分析し、全体を纏める</p>			
準備学習：課題の資料収集			
テキスト：なし、資料プリント配布			
参考書・参考資料等：ファッション雑誌			
学生に対する評価：予習準備（課題の取組み）20%、作品制作提出 70%、受講態度10%			

授業科目名： デジタルデザイン特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：宮本真帆
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>大学院修士課程造形学専攻における専門的知識習得としてデジタルメディアの歴史と表現の多様性を知り、その特性を評価・分析し深く理解する事で実践時に効果的なデザイン計画を立案できる能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>メディア表現の分野は広範にわたり、発達するテクノロジーは生活様式や価値観を多様化させ多彩にまた細分化し日々進化して行く。この授業ではデジタルメディアの発達過程と過去から現在までの多様な作品を検証し、現代社会に於けるデジタルメディアの役割とデザイン面の特性を隣接分野との関係を踏まえ研究する。そしてデジタルメディアデザインにとって要となる点について個々に考察し、高度なデザイン計画に不可欠な知識を得る。造形学専攻の学位授与方針に基づき、デジタルメディアを社会と人の生活に役立てるためのデザイン表現について考察し、これを実践できる専門的能力を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概説とデザイン理論について</p> <p>第2回：デジタルメディア発達史概略</p> <p>第3回：デジタルメディア表現の事例研究（1）古典的事例</p> <p>第4回：デジタルメディア表現の事例研究（2）特徴的事例</p> <p>第5回：レポート作成「デジタルメディア表現の事例調査と分析」</p> <p>第6回：レポートの評価及び検討</p> <p>第7回：インタラクティブデザインとは</p> <p>第8回：モーショングラフィックスとの関連</p> <p>第9回：現代アートとの関連</p> <p>第10回：ユーザ・インタフェース・デザインの実際</p> <p>第11回：ユーザ・インタフェース・デザイン史</p> <p>第12回：積極的デジタルメディアとしてのWEBデザイン</p> <p>第13回：次世代のデジタルメディアとデザイン</p> <p>第14回：レポート作成（テーマは各自設定）</p> <p>第15回：レポートの評価及び検討と今後の展望</p>			
<p>準備学習：</p> <p>サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント等はその都度配付する。PDFファイルはサーバーからダウンロードすること。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>課題レポート40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%</p>			

授業科目名： デジタルデザイン演習I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：宮本真帆
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現実的実地的なデジタルメディアのデザイン能力を習得し、インタラクティブデザインの特性を生かしたコンテンツの制作が工夫できる。様々なデジタルメディア表現に応用できるデザイン力と専門知識を習得し、高度なデザイン制作ができる能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>多様・細分化されたメディア表現活動について考察し、ネット空間におけるメディア表現をWEBを対象に研究する。特に情報コンテンツの構成とユーザ・インタフェース、インタラクションの関わりについて評価・分析し、一般的問題点を抽出した上で、これに対して実際的な解決策を模索し、最終的に独自のWEBデザインモデルを考案し試作する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概説 _</p> <p>第2回：ネット空間におけるメディア表現の考察</p> <p>第3回：メディア表現制作演習（1）情報コンテンツと基本ユーザ・インタフェース</p> <p>第4回：メディア表現制作演習（2）情報コンテンツとユーザ・インタフェースの特性</p> <p>第5回：メディア表現制作演習（3）情報コンテンツとユーザ・インタフェースの技術</p> <p>第6回：メディア表現制作演習（4）デジタルデザインとインタラクションの基本</p> <p>第7回：メディア表現制作演習（5）デジタルデザインとインタラクションの特性</p> <p>第8回：メディア表現制作演習（6）デジタルデザインとインタラクションの技術</p> <p>第9回：課題制作（1）WEBデザインモデルの発案</p> <p>第10回：課題制作（2）WEBデザインモデルの検討</p> <p>第11回：課題制作（3）WEBデザインモデルの試作・原案</p> <p>第12回：課題制作（4）WEBデザインモデルの試作・展開案</p> <p>第13回：課題制作（5）WEBデザインモデルの試作・案の決定</p> <p>第14回：課題制作（6）WEBデザインモデルの試作・案の修正</p> <p>第15回：講評と検討</p>			
<p>準備学習：</p> <p>サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント等はその都度配付する。演習ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること。</p>			
<p>参考書・参考資料等：特になし</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>課題作品40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%</p>			

授業科目名： デジタルデザイン演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：宮本真帆
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>実空間における高度なメディア表現を実制作を通して習得する。PC、スマートフォン等の一体化した装置に縛られる事なく、様々な素材を利用した独自のインタラクティブな造形物の制作を実践する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>実空間におけるデジタルデザインの制作を行う。現在のデジタルデバイスの中心はPC、スマートフォンだが、これは表示装置である液晶モニタとタッチパネルやマウスなどの入力装置を予めセットアップした製品でしかない。実際には各々を別個に選択し組み合わせることが可能であり、この場合、実空間とデジタル表現を高度に融合する事ができ、更に幅広い造形作品の制作が可能になる。多くのマテリアルを扱える造形学専攻の特徴を活かして繊維・陶器・金属・絵画などとの結合も行なえる。この授業ではこうした制作に必要な技術の基礎を学び、実際に作品を作ることで、デジタルメディアを核とし他分野とも横断した表現力豊かな造形デザイン能力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概説</p> <p>第2回：実空間におけるインタラクティブ表現の考察（複数分野の検討比較）</p> <p>第3回：表示装置 事例研究（1）モニタ，プロジェクタ</p> <p>第4回：表示装置 事例研究（2）他の様々な技術</p> <p>第5回：入力装置 事例研究（1）タッチパネル</p> <p>第6回：入力装置 事例研究（2）他の様々な技術</p> <p>第7回：基礎演習（1-1）タッチパネルとモニタを使用した表現（技術習得）</p> <p>第8回：基礎演習（1-2）タッチパネルとモニタを使用した表現（実践制作）</p> <p>第9回：基礎演習（2-1）タッチパネルとプロジェクタを使用した表現（技術習得）</p> <p>第10回：基礎演習（2-2）タッチパネルとプロジェクタを使用した表現（実践制作）</p> <p>第11回：基礎演習（3-1）センサとプロジェクタを使用した表現（技術習得）</p> <p>第12回：基礎演習（3-2）センサとプロジェクタを使用した表現（実践制作）</p> <p>第13回：基礎演習（3-1）センサとLEDを使用した表現（技術習得）</p> <p>第14回：基礎演習（3-2）センサとLEDを使用した表現（実践制作）</p> <p>第15回：表示装置・入力装置・デザインの関係に注目した高度な事例の研究</p> <p>第16回：作品制作 立案（1）テーマと展開案</p> <p>第17回：作品制作 立案（2）参考事例の調査と評価</p> <p>第18回：作品制作 立案（3）企画調整・工程計画</p> <p>第19回：作品制作 試作（1）外観制作（ラフ・素材収集）</p> <p>第20回：作品制作 試作（2）外観制作（制作・パーツ化）</p>			

30 シラバス 造形学専攻

第21回：作品制作 試作（3）オーサリング
第22回：作品制作 試作（4）センサー接続
第23回：作品制作 試作（5）評価・計画調整
第24回：作品制作 本制作（1）外観制作
第25回：作品制作 本制作（2）オーサリング
第26回：作品制作 本制作（3）オーサリング（調整）
第27回：作品制作 本制作（4）センサー接続
第28回：作品制作 本制作（5）センサー接続（調整）
第29回：作品制作 本制作（6）全体調整・修正
第30回：講評とディスカッション

準備学習：

サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。

テキスト：

プリント等はその都度配付する。演習ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること

参考書・参考資料等：

特になし

学生に対する評価：

課題レポート40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%

授業科目名： 映像メディアアート特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：兼古昭彦
授業の到達目標及びテーマ メディア表現の重要な領域である映像表現の幅広い知識を身につけることを目標とする。			
授業の概要 現代の映像表現の広がりを見ながら、映像表現の形式や様式を分析し解説を行う。多種多様な表現を考察しながら、写真表現や動画表現が表す空間と時間への考えを深める。授業では、多くの参考映像作品を観ることで映像表現への理解を促し、また学外の施設・展示などへの見学も行いレポート課題に取り組むなど、映像表現を幅広く研究・制作する能力を養成する。			
授業計画 第1回：映像表現の形式／様式について 第2回：写真という映像表現について 第3回：動画という映像表現について 第4回：アニメーションという映像表現について 第5回：造形作品の素材としての映像 第6回：メディアアートについて 第7回：舞台表現の映像について 第8回：中間レポート作成 第9回：レポートの評価・講評 第10回：ビデオアートについて 第11回：美術作家の映像表現への関わり 第12回：メディアアートにおける映像の役割について 第13回：メディアアートとネットワークの関係について 第14回：2回目レポート作成 第15回：レポートの評価・講評			
準備学習：2時間 毎授業で指定する映像作品を視聴し、レポートを提出する。			
テキスト： 必要に応じて指示する。			
参考書・参考資料等： 必要に応じて指示する。			
学生に対する評価： レポート80%、授業態度20%			

授業科目名： 映像メディアアート演習I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：兼古昭彦
授業の到達目標及びテーマ 様々な研究領域に対応した、映像表現の基本的な技能を身につけることを目標とする。			
授業の概要 様々な研究領域にとって必要なメディアとなってきた映像表現への柔軟な発想と技能を身につけることで、各自の研究テーマの幅を広げる。また、造形表現のためのメディアとして映像を再考察し、表現の素材として利用することを学ぶ。演習課題としては、参考作品の分析と撮影の模倣から始め、各自の研究テーマに準じ撮影した動画の作品発表、検討・評価を行う。			
授業計画 第1回：多様化された映像表現とその制作方法について 第2回：制作準備演習：造形表現のためのメディアとしての映像表現(写真) 第3回：制作演習1(写真)：素材撮影と編集／加工(硬質物) 第4回：制作演習2(写真)：素材撮影と編集／加工(軟質物) 第5回：制作演習3(写真)：素材撮影と編集／加工(液体物) 第6回：作品制作：制作プラン 第7回：作品制作：素材撮影 第8回：作品制作：編集／出力 第9回：作品の講評と検討 第10回：制作演習4(Final Cut)：素材撮影と編集／加工(硬質物) 第11回：制作演習5(Final Cut)：素材撮影と編集／加工(軟質物) 第12回：作品制作：制作プラン、コンテ制作 第13回：作品制作：素材撮影 第14回：作品制作：編集／出力 第15回：作品の講評と検討			
準備学習：2時間 毎授業で指定する映像作品を視聴し、レポートを提出する。			
テキスト： 必要に応じて指示する。			
参考書・参考資料等： 使用パソコンはApple Mac			
学生に対する評価： 演習作品80%, 授業態度20%			

授業科目名： 映像メディアアート演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：兼古昭彦
授業の到達目標及びテーマ 様々な研究領域に対応した、映像表現の実践的な知識と技能を身につけることを目標とする。			
授業の概要 各自の研究テーマに必要なメディア表現の考察を行い、研究テーマを空間と時間から捉え直していく。演習課題としては、各自が研究・考察し決定したテーマに基づき、さまざまな撮影状況を設定し研究素材を撮影しながら、編集加工する制作演習を行い、演習課題での作品の発表・検討、評価する。			
授業計画 第1回：映像メディア表現について 第2回：制作準備演習：映像メディア表現の空間性 第3回：制作準備演習：映像メディア表現の時間性 第4回：制作演習1(写真)：素材撮影 第5回：制作演習1(写真)：素材編集 第6回：制作演習1(写真)：素材加工 第7回：制作演習2(Final Cut)：素材撮影 第8回：制作演習2(AfterEffects)：素材編集 第9回：制作演習2(AfterEffects)：素材加工 第10回：制作演習3(AfterEffects)：素材撮影 第11回：制作演習3(Final Cut)：素材加工 第12回：制作演習3(Final Cut)：素材編集 第13回：作品制作：制作プラン 第14回：作品制作：コンテ制作 第15回：作品制作：素材撮影 第16回：作品制作：編集 第17回：作品制作：出力 第18回：作品講評 第19回：作品再考、修正 第20回：作品制作：制作プラン 第21回：作品制作：(写真)：素材編集 第22回：作品制作：(写真)：素材加工 第23回：作品制作：(Final Cut)：素材編集 第24回：作品制作：(AfterEffects)：素材加工 第25回：作品制作：(AfterEffects)：素材編集 第26回：作品制作：(Final Cut)：素材編集 第27回：作品制作：(Final Cut)：素材加工			

30 シラバス 造形学専攻

第28回：作品制作：(Final Cut):素材編集

第29回：作品制作:編集／出力

第30回：作品の講評と検討

準備学習：2時間

毎授業で指定する映像作品を視聴し、レポートを提出する。

テキスト：

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等：

使用パソコンはApple Mac

学生に対する評価：

演習作品80%, 授業態度20%

授業科目名：美術史特論	単位数： 2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：曾根博美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>仏教絵画を各時代の動向・背景を踏まえた上で、造形上の特徴を分析、研究を実施することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本美術史の精神的支柱である仏教美術のうち、仏教絵画の主要な作品についてより詳細な解説と分析を行い、専門的知識を深める。授業では実際に対象となる作品を選び、テーマの設定から実地調査まで、研究に必要なアプローチを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本美術史と仏教絵画の概観</p> <p>第2回：飛鳥・奈良時代 法隆寺と天平仏画</p> <p>第3回：平安時代前期 曼荼羅</p> <p>第4回：平安時代後期（1） 浄土教絵画</p> <p>第5回：平安時代後期（2） 密教絵画</p> <p>第6回：平安時代後期（3） 垂迹画・社寺縁起・経絵</p> <p>第7回：平安時代 まとめとディスカッション</p> <p>第8回：鎌倉時代（1） 阿弥陀図・来迎図</p> <p>第9回：鎌倉時代（2） 地獄草紙</p> <p>第10回：鎌倉時代（3） 六道絵</p> <p>第11回：鎌倉時代（4） 密教絵・説話図・高僧伝絵</p> <p>第12回：鎌倉時代 まとめとディスカッション</p> <p>第13回：室町時代以降の仏教絵画の展開</p> <p>第14回：課題発表</p> <p>第15回：まとめと解説</p>			
<p>準備学習：</p> <p>予習：提示された関連資料を読んでくること。復習：授業の要点の整理をすること。</p>			
<p>テキスト：必要に応じて提示</p>			
<p>参考書・参考資料等：必要に応じ適宜配布</p>			
<p>学生に対する評価：平常点 10%</p> <p>レポート 30%</p> <p>小テスト 20%</p> <p>課題 40%</p>			

授業科目名：陶芸特論	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：高田三平
授業の到達目標及びテーマ 日本の陶芸の成り立ちを、歴史的・地理的・民族的観点から考察する。			
授業の概要 日本は古代より大陸から流入した文化を取り入れアレンジして、独自の文化を形成してきた。陶芸もその影響を顕著に受けて変遷を続けている。古代から現代迄の陶芸のあり方や特徴を、各時代の社会的背景と関係づけながら比較し自己の制作に応用していく。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：縄文・弥生・古墳時代の陶 第3回：須恵器・朝鮮半島からの伝来 第4回：鎌倉・室町時代の地方の窯 第5回：桃山時代のやきもの・秀吉と利休 第6回：江戸時代のやきもの・磁器のはじまり 第7回：明治時代・やきもの技術の近代化 第8回：現代のやきもの・多様性 第9回：西洋Ⅰ 古代の陶 第10回：西洋Ⅱ 中世のやきもの 第11回：西洋Ⅲ 現代に至るやきもの 第12回：日本の現代陶芸作家 第13回：海外の現代陶芸作家 第14回：各自の注目する作家・作品とその表現について発表とディスカッション 第15回：各自の視点で考える今後の「陶」の表現の可能性についてレポートにまとめる			
準備学習：なし 毎授業後、レポートを提出する			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：適宜提示			
学生に対する評価：平常点40% レポート60%			

授業科目名：陶芸演習 I	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：高田三平
授業の到達目標及びテーマ 陶芸の粘土の特性や伝統的技法を知り、陶造形の可能性を探る。			
授業の概要 陶芸の基礎を学習する。 伝統的成形技法・釉薬・焼成技術を学び、陶芸による造形表現の基をつくる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：陶芸粘土の成り立ち（特殊性） 第3回：成形の実践1 手びねり 第4回：成形の実践2 手びねりの仕上げ 第5回：成形の実践3 タタラ作り 第6回：成形の実践4 電動ロクロで作る I 第7回：成形の実践5 電動ロクロで作る II 第8回：成形の実践6 電動ロクロで削る 第9回：各自制作テーマを決定 伝統の釉薬とその組成 第10回：制作1 陶芸の窯と焼成 第11回：制作2 装飾技法 I 練り込み 第12回：制作3 装飾技法 II 白化粧・色化粧 第13回：制作4 装飾技法 III 象嵌 第14回：焼成 酸化焼成と還元焼成 第15回：作品発表			
準備学習：なし 毎授業後、レポートを提出する。			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：適宜提示			
学生に対する評価：平常点30% レポート10% 作品60%			

授業科目名：陶芸演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：高田三平
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>自身の表現のテーマとして、電動ロクロと装飾技法を応用し作品を完成させる。 完成後は作品を発表し、作品と制作について議論する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>陶芸の多様な技法の中から電動ロクロを導入し、関心のある装飾技法を選択し制作する。 はじめに、選択した技法の代表的作品を模刻する。 その後、完成した模刻作品を基に試し、自己の作品を完成させ発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：制作1 電動ロクロで小鉢を作る</p> <p>第3回：制作2 電動ロクロで小鉢を削る</p> <p>第4回：制作3 電動ロクロで中鉢を作る</p> <p>第5回：制作4 電動ロクロで中鉢を削る</p> <p>第6回：制作5 電動ロクロで皿を作る</p> <p>第7回：制作6 電動ロクロで大皿を作る</p> <p>第8回：制作7 電動ロクロで皿、大皿を削る</p> <p>第9回：制作8 電動ロクロで壺を作る</p> <p>第10回：制作9 電動ロクロで壺を削る</p> <p>第11回：焼成（素焼き800℃）</p> <p>第12回：施釉</p> <p>第13回：施釉と窯づめ</p> <p>第14回：焼成（本焼き1250℃）</p> <p>第15回：中間発表とディスカッション（後期自由制作のプランを考える）</p> <p>第16回：自由制作のプラン発表・ディスカッションにて制作作品を決定</p> <p>第17回：制作1 プランに基づく作り方の研究</p> <p>第18回：制作2 かたちを構築1</p> <p>第19回：制作3 かたちを構築2</p> <p>第20回：制作4 装飾技法の研究</p> <p>第21回：制作5 装飾技法の導入</p> <p>第22回：制作6 装飾技法の展開</p> <p>第23回：制作7 問題点の追求</p> <p>第24回：制作8 問題点の修正</p> <p>第25回：制作9 仕上げ</p> <p>第26回：焼成（素焼き800℃）</p>			

30 シラバス 造形学専攻

第27回：施釉と窯づめ

第28回：焼成（本焼き1250℃）

第29回：上絵付けと焼成（上絵800℃）

第30回：作品発表とディスカッション・講評

準備学習：なし

毎授業後、レポートを提出する。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：適宜提示

学生に対する評価：平常点30% レポート10% 作品60%

授業科目名： 金工・ジュエリー特論	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：押元信幸
授業の到達目標及びテーマ 金工のながれを時代ごとに辿り、その造形美を生み出す技術と理念の知識を修得する。さらに、ここで培った知識を学生それぞれの専門分野へ関係づける。			
授業の概要 授業計画に示すように、人類と金属の出会いから、時系列にそって授業を進めることで、金工・ジュエリーについての専門的な知識を修得していく。前半は、金工品や装身具の歴史をたどりながら、金工・ジュエリーの発展と特徴を理解し、その文化史的な意味を特定する。後半は工芸造形表現の基本概念を様々な視点から文献、作品、作者を通覧し比較検討する。			
授業計画 第1回：金工・ジュエリーを学ぶために 序 第2回：金工のながれ (原始) 第3回：金工のながれ (古代) 第4回：金工のながれ (中世) 第5回：金工のながれ (近世) 第6回：日本の金工のながれ (近代) 第7回：日本の金工のながれ (現代) 第8回：日本の金工のながれ (同時代) 第9回：工芸造形表現の基本概念 (産業・地域) 第10回：工芸造形表現の基本概念 (文化・様式・装飾) 第11回：工芸造形表現の基本概念 (デザイン・機能・素材) 第12回：工芸造形表現の基本概念 (ものづくり・教育) 第13回：工芸造形表現の基本概念 (オブジェ・アート) 第14回：拡張するモダニズムの工芸 第15回：まとめ (創作活動における金工の意味)			
準備学習：予習1時間、復習・ノート整理1時間 時代考証のための世界史、日本史、工芸史の予習。または次の授業までに出された課題について。			
テキスト： 適宜配布する。			
参考書・参考資料等： 適宜指示する。			
学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答えなどの平常点40点。課題に対するレポート提出40点。			

授業科目名： 金工・ジュエリー演習 I	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：押元信幸
授業の到達目標及びテーマ 造形分野における独創性のある制作論を構築する。学生の研究課題に関連できるように、金属造形の技法や技能を応用する。			
授業の概要 それぞれの研究課題について、被服造形に係わるジュエリーまたは広義の金属造形表現を関連づけてできるように、制作計画を立て、独自の発想に基づく作品を制作していく。制作に至る導入と経緯について、的確に整理し議論しなければならない。作品制作中に、素材・技法や表現方法について具体的にアドバイスすることで、自己表現としての作品制作に必要な実践力、技能を身につけていく。			
授業計画 第1回：金工・ジュエリーを制作するために 序 第2回：「鍛金」「彫金」課題説明・デザイン計画 第3回：制作1-1/試作・地金取り 第4回：制作1-2/テクスチャー・金鎖とたがねの表現 第5回：制作1-3/接合・組み立て 第6回：制作1-4/研磨 第7回：制作1-5/仕上げ 第8回：「七宝」「鑄金」課題説明・デザイン計画地金取り 第9回：制作2-1/試作・胎の地金取り/原型づくり 第10回：制作2-2/胎の表現/原型づくり仕上げ 第11回：制作2-3/胎の接合/原型埋没 第12回：制作2-4/七宝による表現/脱鑲 第13回：制作2-5/焼成/鑄込み 第14回：制作2-6/制作・着色仕上げ 第15回：講評 ※適時、中間チェックを行う。			
準備学習：予習0.5時間、復習・ノート整理0.5時間 授業中にできなかった課題について補完する。または次の授業までに出された課題について予習する。			
テキスト： 適宜配布する。			
参考書・参考資料等： 適宜指示する。			
学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答えなどの平常点40点。課題に対する作品提出40点。			

授業科目名： 金工・ジュエリー演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：押元信幸
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>造形分野における独創性のある制作論を展開する。研究の各段階において、学生の自主性を重んじ、研究課題に関連する金工・ジュエリー分野の領域全般について、専門知識を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学生の研究課題について、目的、制作計画、学術的背景、方法論、調査領域などに関するアドバイスと議論を行う。また、学生の制作研究について、素材・技法や表現方法の実技指導、企画・発表・コミュニケーションなどの能力を修得し、実社会において専門技術者、教育者として自立できるよう動機づける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：金工・ジュエリーを制作するために 序</p> <p>第2回：研究目的・研究計画1/学術的背景と方法論</p> <p>第3回：研究目的・研究計画2/調査領域</p> <p>第4回：調査計画1/分析と評価</p> <p>第5回：調査計画2/具体案の作成</p> <p>第6回：調査1/撮影機器の取り扱い</p> <p>第7回：調査1/スケッチと撮影記録</p> <p>第8回：調査結果の分析と評価1/ケーススタディ</p> <p>第9回：調査結果の分析と評価2/作図</p> <p>第10回：研究成果内容1/実験</p> <p>第11回：研究成果内容2/考察</p> <p>第12回：研究報告内容3/骨子</p> <p>第13回：研究報告内容4/細部</p> <p>第14回：研究報告の発表</p> <p>第15回：制作1-1/金属素材の観察</p> <p>第16回：制作1-2/アイデアスケッチと試作</p> <p>第17回：制作1-3/金属素材の加工方法</p> <p>第18回：制作1-4/金属素材の表情と形態</p> <p>第19回：制作1-5/金属素材の色と仕上げ</p> <p>第20回：制作2-1/装身具またはオブジェの観察</p> <p>第21回：制作2-2/アイデアスケッチと試作</p> <p>第22回：制作2-3/装身具またはオブジェの加工方法</p> <p>第23回：制作2-4/装身具またはオブジェの表情と形態</p> <p>第24回：制作2-5/装身具またはオブジェの色と仕上げ</p> <p>第25回：制作3-1/工芸素材の観察</p>			

30 シラバス 造形学専攻

第26回：制作3-2/アイデアスケッチと試作

第27回：制作3-3/工芸素材の加工方法

第28回：制作3-4/工芸素材の表情と形態

第29回：制作3-5/工芸素材の色と仕上げ

第30回：講評 ※適時、中間チェックを行う。

準備学習：予習0.5時間、復習・ノート整理0.5時間

授業中にできなかった課題について補完する。または次の授業までに出された課題について予習する。

テキスト：

適宜配布する。

参考書・参考資料等：

適宜指示する。

学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答えなどの平常点40点。課題に対する作品提出40点。

授業科目名：染色造形特論	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：早瀬郁恵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>伝統的な染色からテキスタイルアートまで、様々な表現技法を多角的に学び、素材や染色法についての知識を深めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生活空間の中で「テキスタイル」は様々な工芸素材の領域のうちで最も触れる機会が多い身近な素材のひとつにあげられ、衣服やインテリア＝ファブリックなど生産を前提としたものから一品制作としてのアート作品まで幅広く存在している。この教科では、生活の中で「テキスタイル」の持つ役割や必要性を歴史的に考察し論説する。さらにディスカッションにより表現手段として布や繊維とどのように取り組んだらよいかを、様々な技法や加工法の実例を通して理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価、等）</p> <p>第2回：生活の中のテキスタイル (1) 衣服</p> <p>第3回：生活の中のテキスタイル (2) インテリアファブリック</p> <p>第4回：染色作家の作品と造形表現</p> <p>第5回：創作の発想と展開</p> <p>第6回：テキスタイル素材および色材について</p> <p>第7回：防染技法 (1) 各種技法</p> <p>第8回：防染技法 (2) 材料の特性と染料の関係</p> <p>第9回：防染技法 (3) 様々な素材と表現効果</p> <p>第10回：捺染技法 (1) 各種技法</p> <p>第11回：捺染技法 (2) 材料の特性と染料の関係</p> <p>第12回：捺染技法 (3) 様々な素材と表現効果</p> <p>第13回：テキスタイル加工法と表現 (1) 立体加工</p> <p>第14回：テキスタイル加工法と表現 (2) 特殊加工</p> <p>第15回：まとめ、発表</p>			
<p>準備学習：予習：各種の表現技法や作家等について資料収集する。</p> <p>復習：授業内容をノートに整理する。時間は各1時間</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度提示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>予習・復習の有無20%、課題発表40%、レポート40%</p>			

授業科目名：染色造形演習 I	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：早瀬郁恵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>素材と表現の関係や多様な技法の特徴を理解し、制作演習のなかで自身のアイデアを効果的に展開できる想像力、表現力、応用力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>染色造形において、発想を具現化する要因として素材や技法の占める割合は極めて大きく、それらによっては表現形態が大きく変わってくる。この教科では、蠟や糊、絞りによる防染やスクリーン捺染、ブロックプリント等の染色技法とそれに基づく表現方法について、論説と演習を通してより深く理解する。さらに各種素材の特性を生かした表現効果についても制作演習により検討、批評を行なう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価、等）</p> <p>第2回：防染技法（絞り又は板締）の理論と実践</p> <p>第3回：防染技法（絞り又は板締）の実践 素材と表現効果</p> <p>第4回：防染技法（絞り又は板締）の応用 素材と表現効果</p> <p>第5回：防染技法（蠟又は糊）の理論と実践</p> <p>第6回：防染技法（蠟又は糊）の実践 素材と表現効果</p> <p>第7回：防染技法（蠟又は糊）の応用 素材と表現効果</p> <p>第8回：中間まとめ、発表</p> <p>第9回：捺染技法の理論と実践 素材と表現効果</p> <p>第10回：捺染技法の理論と実践 パターンデザインの発想と展開</p> <p>第11回：捺染技法の理論と実践 製版について</p> <p>第12回：捺染技法の実践 染料又は顔料によるプリント</p> <p>第13回：捺染技法の応用 着防によるプリント</p> <p>第14回：捺染技法の応用 着抜によるプリント</p> <p>第15回：まとめ、発表</p>			
<p>準備学習：予習：課題に応じて資料収集し、デザインを考える。</p> <p>復習：試作の工程やテクスチャーについて記録し、整理する。 時間は各1時間</p>			
<p>テキスト：プリント配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度提示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>予習・復習の有無20%、課題発表50%、レポート30%</p>			

授業科目名：染色造形演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：早瀬郁恵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>素材、技法、表現方法の融合を図り、柔軟な発想で独創的な作品を制作できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各自の研究するテーマの充実を図るためには、幅広い視野とより高度な表現力が要求される。この教科では、染色造形演習Ⅰで学んだ染色技法だけでなく、テキスタイル加工と他のカテゴリーの表現技法であるフリーステッチ・ミシンワーク等や異素材との組み合わせを論説と制作演習により模索する。表現の幅を広げ、新しい視点から捉えた染色作品（平面から立体作品まで）の展開を試み検討、批評を行なう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価、等）</p> <p>第2回：現代のテキスタイルアートについて（1）作家と作品</p> <p>第3回：現代のテキスタイルアートについて（2）素材と技法</p> <p>第4回：テキスタイル加工の理論と実践</p> <p>第5回：テキスタイル加工の実践</p> <p>第6回：テキスタイル加工の応用</p> <p>第7回：作品制作演習① 各種染色技法とテキスタイル加工による表現</p> <p>第8回：作品制作演習① 資料収集、アイデアスケッチによるイメージ表現</p> <p>第9回：作品制作演習① デザインチェック</p> <p>第10回：作品制作演習① 素材と表現技法</p> <p>第11回：作品制作演習① 制作工程の検討</p> <p>第12回：作品制作演習① 制作（染色）</p> <p>第13回：作品制作演習① 制作（加工）</p> <p>第14回：中間まとめ、発表</p> <p>第15回：複合的表現について（1）素材と技法</p> <p>第16回：複合的表現について（2）構成</p> <p>第17回：複合的表現の実践（1）ステッチワーク（フリー）</p> <p>第18回：複合的表現の実践（2）ステッチワーク（ミシン）</p> <p>第19回：複合的表現の実践（3）異素材とコラージュ</p> <p>第20回：複合的表現の応用（1）染色技法とステッチワーク</p> <p>第21回：複合的表現の応用（2）テキスタイル加工とステッチワーク</p> <p>第22回：複合的表現の応用（3）異素材とコラージュ</p> <p>第23回：作品制作演習（平面又は立体）② 資料収集、アイデアスケッチによるイメージ表現</p> <p>第24回：作品制作演習（平面又は立体）② デザインチェック</p> <p>第25回：作品制作演習（平面又は立体）② 素材と表現技法</p>			

30 シラバス 造形学専攻

第26回：作品制作演習（平面又は立体）② 制作工程の検討
第27回：作品制作演習（平面又は立体）② 制作（染色）
第28回：作品制作演習（平面又は立体）② 制作（加工）
第29回：作品制作演習（平面又は立体）② 制作（構成）
第30回：まとめ、発表

準備学習：予習：課題に応じて資料収集し、デザインを考える。

復習：試作の工程やテクスチャーについて記録し、整理する。時間は、各1時間

テキスト：

プリント配布する。

参考書・参考資料等：

その都度提示する。

学生に対する評価：

予習・復習の有無20%、課題発表50%、レポート30%

授業科目名：織物特論	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：大木敦子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>織物をはじめ繊維の歴史に焦点をあて、国内外の文化的背景を理解し、現代における織物とアートとの関わりまたその役割を理解することが出来る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>織物の歴史は人間の文化的生活の歴史であり、その技術の発展は時に人類の歴史の転換点に大きく関わってきた。「衣」「食」「住」のすべてに関わる織物の役割とその変遷、世界各地の織物の技術や道具を含め歴史的背景を比較し考察する。</p> <p>またアートとしてどのように造形要素が確立されてきたのかを考察し、今後のテキスタイルアートの可能性を議論する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（概要説明、進め方など）</p> <p>第2回：織物の起源</p> <p>第3回：西洋の織物の歴史</p> <p>第4回：東洋の織物の歴史</p> <p>第5回：美術と織物</p> <p>第6回：西洋と東洋を結ぶ織物</p> <p>第7回：学外学習</p> <p>第8回：素材の歴史</p> <p>第9回：世界各地の織り機</p> <p>第10回：日本の伝統織物</p> <p>第11回：近・現代の織物</p> <p>第12回：織物と様々な分野の関わり</p> <p>第13回：ファイバーアートの世界</p> <p>第14回：まとめ</p> <p>第15回：研究発表</p>			
<p>準備学習：</p> <p>各回の授業テーマについて資料を収集する。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>適時指示する</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>適時指示する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポート40%、研究発表40%、授業への取り組み方20%</p>			

授業科目名：織物演習 I	単位数：2 単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：大木敦子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>織物の組織図を理解し、素材との関係性を演習を通して考察する。各組織の特徴を作品制作の中で応用できる力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>織物の基本構造の理解と専門的知識の習得のためには組織図を理解することが必要である。三原組織（平織・綾織・朱子織）をはじめ各組織を読み解くことができ、オリジナルの組織図をおこすことができるようになることを目指す。また各組織と素材の関係を考察し、作品制作の中で応用していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（概要説明、進め方など）</p> <p>第2回：組織研究1（組織図について）</p> <p>第3回：組織研究2（三原組織演習）</p> <p>第4回：組織研究3（組織のバリエーション）</p> <p>第5回：素材研究1（組織と素材の関係）</p> <p>第6回：素材研究2（オリジナルの組織と素材）</p> <p>第7回：まとめ、ディスカッション</p> <p>第8回：研究制作1（デザイン）</p> <p>第9回：研究制作2（糸染め）</p> <p>第10回：研究制作3（整経・箆通し・綜統通し）</p> <p>第11回：研究制作4（ビーミング・織り出し）</p> <p>第12回：研究制作5（織50%）</p> <p>第13回：研究制作6（織100%）</p> <p>第14回：研究制作7（機おろし、仕上げ）</p> <p>第15回：講評会、レポート提出</p>			
<p>準備学習：</p> <p>各回の授業内容に応じて資料収集をする。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリントを適宜配布</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>適宜指示する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>作品50%、レポート30%、授業への取り組み方20%</p>			

授業科目名：織物演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：大木敦子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>作品制作に必要な素材、技法の研究に主体的に取り組み、完成度の高い作品制作を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>織物の作品制作においてこれまで習得してきた技法や、素材体験を更に深める。 各々のイメージの具現化に必要な技法や素材を見極めるため実験、試作を重ね、展示方法、演出方法を含め完成度の高い作品を制作する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（概要説明、進め方など）</p> <p>第2回：素材研究1（天然素材）</p> <p>第3回：素材研究2（人工素材、複合素材）</p> <p>第4回：素材研究3（オリジナル素材）</p> <p>第5回：技法研究1（平面表現）</p> <p>第6回：技法研究2（立体表現）</p> <p>第7回：技法研究3（空間表現）</p> <p>第8回：作品演出の方法</p> <p>第9回：イメージの具現化に向けて（資料収集）</p> <p>第10回：試作1（素材比較を中心としたサンプル制作）</p> <p>第11回：試作2（技法比較を中心としたサンプル制作）</p> <p>第12回：まとめ</p> <p>第13回：中間発表、ディスカッション</p> <p>第14回：デザイン（考察）</p> <p>第15回：デザイン（素材・技法の決定）</p> <p>第16回：作品制作1（組織構築、素材計算）</p> <p>第17回：作品制作2（糸染め）</p> <p>第18回：作品制作3（整経・綜統通し）</p> <p>第19回：作品制作4（ビーミング）</p> <p>第20回：作品制作5（織り出し）</p> <p>第21回：作品制作6（織20%）</p> <p>第22回：作品制作7（織40%）</p> <p>第23回：作品制作8（織60%）</p> <p>第24回：作品制作9（織80%）</p> <p>第25回：作品制作10（織100%）</p> <p>第26回：作品制作11（織おろし）</p>			

30 シラバス 造形学専攻

第27回： 作品制作 1 2（仕上げ）

第28回： 作品制作 1 3（展示準備）

第29回： 作品展示・講評会

第30回： まとめ、ディスカッション、レポート提出

準備学習：

各回の授業内容に応じて資料収集をする。

テキスト：

適宜指示する

参考書・参考資料等：

適宜指示する

学生に対する評価：

作品 50%、レポート 30%、授業への取り組み方 20%

授業科目名：絵画特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：山藤仁
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人はなぜ表現し描くのか、表現とはなにかを原始から続く表現の歴史を参照しながら追求し理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ラスコー洞窟壁画、アルタミラ洞窟壁画、ショーヴェ洞窟壁画について講述とディスカッションにより考察を始める。絵画の歴史を参照しながら現在の美術表現まで重要な絵画の諸運動を取り上げる。20世紀初期では、後期印象派、キュビズム、フォービズム、アンフォルメル、シュルレアリスム、バウハウス等を、第2次大戦後では、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、ニューペインティング等を取り上げる。具体的には、多くの作品を直接、または映像を用いて鑑賞・分析し、ディスカッションを通じて絵画と社会との関わり近・現代の美術表現における美とは何かを考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(講義の概要、進め方、評価 等)</p> <p>第2回：ラスコー洞窟壁画、アルタミラ洞窟壁画、ショーヴェ洞窟壁画について(論説)</p> <p>第3回：後期印象派について(論説)</p> <p>第4回：キュビズムについて(論説)</p> <p>第5回：フォービズムについて(論説)</p> <p>第6回：アンフォルメルについて(論説)</p> <p>第7回：シュルレアリスムについて(論説)</p> <p>第8回：バウハウスについて(論説)</p> <p>第9回：中間まとめ(実験・制作)</p> <p>第10回：制作発表(ディスカッション)</p> <p>第11回：抽象表現主義について(論説)</p> <p>第12回：ポップアート、ミニマルアートについて(論説)</p> <p>第13回：ニューペインティングについて(論説)</p> <p>第14回：まとめ(実験・制作)</p> <p>第15回：まとめ、制作発表(全体の理解度を確認(ディスカッション))</p>			
<p>準備学習：「授業前には資料等を調べ疑問点や自分の考え方を構築しておくこと」</p> <p>「毎授業後にはレポートを提出すること」</p>			
<p>テキスト：</p> <p>その都度、提示・配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度、提示・配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業への取り組み方、参加態度、レポート等を総合的に評価する。</p>			

授業科目名：絵画演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：山藤仁
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人はなぜ表現し描くのか、表現とはなにかを追求し理解を深める。近代の作家・作品の研究、日本とヨーロッパの絵画表現について追求し理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近・現代の絵画表現では、数々の絵画運動のなかから多様な素材・技法による表現が試みられてきた。この科目では、近代の作家と作品について、制作演習を通じてより具体的に考察を深め、それを各自の表現の応用に発展させることが目的である。具体的な方法として、数名の作家の作品についての模写による構図研究、作家が試みた素材と技法の制作演習により、作家作品をより詳しく分析する。制作過程を追体験することにより作家がどのような意識で制作に望んだかその概念とは何かを理解し技術を修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(講義の概要、進め方、評価 等)</p> <p>第2回：近・現代の美術表現と作家(ヨーロッパ)についての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第3回：近・現代の美術表現と作家(日本・東洋)についての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第4回：日本とヨーロッパの絵画表現の比較(ワークショップ)</p> <p>第5回：作家・作品研究A① 時代背景についての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第6回：作家・作品研究A② 構図の研究・模写(ワークショップ)</p> <p>第7回：作家・作品研究A③ 素材・技法の研究(ワークショップ)</p> <p>第8回：作家・作品研究A④ 総合的理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第9回：Aについてのまとめ(プレゼンテーション・ディスカッション)</p> <p>第10回：作家・作品研究B① 時代背景についての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第11回：作家・作品研究B② 構図の研究・模写(ワークショップ)</p> <p>第12回：作家・作品研究B③ 素材・技法の研究(ワークショップ)</p> <p>第13回：作家・作品研究B④ 総合的理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第14回：Bについてのまとめ(プレゼンテーション・ディスカッション)</p> <p>第15回：まとめ、全体の理解度を確認(ディスカッション)</p>			
<p>準備学習：</p> <p>「授業前には資料等を調べ疑問点や自分の考え方を構築しておくこと」</p> <p>「毎授業後にはレポートを提出すること」</p>			
<p>テキスト：</p> <p>その都度、提示・配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度、提示・配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業への参加態度、プレゼンテーション等への取り組み、レポート等を総合的に評価する。</p>			

授業科目名：絵画演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：山藤仁
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人はなぜ表現し描くのか、表現とはなにかを追求し理解を深める。現代の作家・作品の研究、日本とヨーロッパ・アメリカの美術表現についてさらに追求し理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代の美術は、平面から立体、オブジェ、映像、パフォーマンス、コンセプチュアルアート等、近代美術からさらに多様に多彩な表現が展開されてきている。この科目では、現代の美術と作家・作品とその意味合いについて解説、制作演習を行い平面表現の可能性を追求することが目的である。例としては、抽象表現主義の作家ポロックのドリッピングの技法による平面表現、また、多くの作家により試みられている様々な素材を併用したミクストメディアや半立体による表現等の制作演習が上げられるが、その制作過程の体験から、近代から現代の美術に発展してきた表現の意味合いをより深く認識する。</p>			
<p>授業計画 (1回の授業は2限連続)</p> <p>第1回：オリエンテーション(講義の概要、進め方、評価 等)</p> <p>第2回：現代の美術表現と作家(ヨーロッパ・アメリカ)についての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第3回：現代の美術表現と作家(日本・東洋)についての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第4回：日本とヨーロッパ・アメリカの美術表現の比較(ワークショップ)</p> <p>第5回：作家・作品研究A① 時代背景についての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第6回：作家・作品研究A② コンセプトについての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第7回：作家・作品研究A③ 素材・技法の研究(ワークショップ)</p> <p>第8回：作家・作品研究A④ 総合的理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第9回：Aについてのまとめ(プレゼンテーション・ディスカッション)</p> <p>第10回：作家・作品研究B① 時代背景についての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第11回：作家・作品研究B② コンセプトについての理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第12回：作家・作品研究B③ 素材・技法の研究(ワークショップ)</p> <p>第13回：作家・作品研究B④ 総合的理解と実践(ワークショップ)</p> <p>第14回：Bについてのまとめ(プレゼンテーション・ディスカッション)</p> <p>第15回：まとめ、全体の理解度を確認(ディスカッション)</p>			
<p>準備学習：</p> <p>「授業前には資料等を調べ疑問点や自分の考え方を構築しておくこと」</p> <p>「毎授業後にはレポートを提出すること」</p>			
<p>テキスト：</p> <p>その都度、提示・配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度、提示・配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業への参加態度、プレゼンテーション等への取り組み、レポート等を総合的に評価する。</p>			

授業科目名： グラフィックデザイン特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：有馬十三郎
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>大学院修士課程造形学専攻における専門的知識習得のために、さまざまなメディアに対して高度なデザイン知識を習得し、ユーザーインターフェイス、インタラクティブデザインの特性を生かしたグラフィックデザイン特論を学ぶ。特にグラフィックデザインとインタラクティブデザインで解決されていない課題を探求できる能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グラフィックデザインを生活文化との関係で研究し、社会性を重視した計画立案を前提としたデザインの意義を検討する。造形学専攻の学位授与方針に基づき、広告のグラフィックデザイン、視覚コミュニケーション表現、イラストレーション、写真表現などさまざまな領域でのグラフィックデザインの特徴を比較し、グラフィックデザインの専門的能力を習得していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生活文化とグラフィックデザイン 1. 概説</p> <p>第2回：生活文化とグラフィックデザイン 2. リサーチ</p> <p>第3回：生活文化とグラフィックデザイン 3. 分析</p> <p>第4回：レポート作成・ディスカッション</p> <p>第5回：グラフィックデザインの社会性</p> <p>第6回：グラフィックデザインとアート</p> <p>第7回：グラフィックデザインとインタラクティブ</p> <p>第8回：デザイン計画立案について</p> <p>第9回：デザイン計画立案の構築法について</p> <p>第10回：デザイン計画立案の行程進捗について</p> <p>第11回：公共に関わるグラフィックデザインについて</p> <p>第12回：さまざまな領域とグラフィックデザインの考察</p> <p>第13回：さまざまな領域とグラフィックデザインの考察のまとめ</p> <p>第14回：さまざまな領域とグラフィックデザインの考察のレポート作成について</p> <p>第15回：さまざまな領域とグラフィックデザインの考察のレポート発表と今後の展望</p>			
<p>準備学習：</p> <p>サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント等はその都度配付する。PDFファイルはサーバーからダウンロードすること。</p>			
<p>参考書・参考資料等：特になし</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>課題レポート40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%</p>			

授業科目名： グラフィックデザイン演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：有馬十三郎
授業の到達目標及びテーマ 大学院修士課程造形学専攻における専門的知識習得のために、多様なデザイン研究領域に対応したグラフィックデザインの技能を習得し、新しいグラフィックモデルの試作を工夫する。			
授業の概要 グラフィックデザインは様々なデザインの研究領域にとって関連する分野といえる。そのデザイン表現において、グラフィックデザインにおける柔軟な発想と技能を身につけることは、各自の研究テーマの幅を広げる。造形学専攻の学位授与方針に基づき、演習課題は参考作品の分析から始め、各自の研究テーマに準じデザインの作品発表、検討・評価を行う。			
授業計画 第1回：授業の概説 第2回：平面表現におけるデザインの考察 第3回：デザイン表現演習1（配置と構成） 第4回：デザイン表現演習2（タイポグラフィの特性） 第5回：デザイン表現演習3（タイポグラフィの技術） 第6回：デザイン表現演習4（コンテンツデザインとインタラクティブの基本） 第7回：デザイン表現演習5（コンテンツデザインとインタラクティブの特性） 第8回：デザイン表現演習6（コンテンツデザインとインタラクティブの技術） 第9回：課題制作（新しいグラフィックモデルの発案） 第10回：課題制作（新しいグラフィックモデルの検討） 第11回：課題制作（新しいグラフィックモデルの展開案） 第12回：課題制作（新しいグラフィックモデルの試作） 第13回：課題制作（新しいグラフィックモデルの試作の決定） 第14回：課題制作（修正） 第15回：検討と講評			
準備学習： サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。			
テキスト： プリント等はその都度配付する。演習ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること。			
参考書・参考資料等： 特になし			
学生に対する評価： 課題作品40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%			

授業科目名： グラフィックデザイン演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：有馬十三郎
授業の到達目標及びテーマ 大学院修士課程造形学専攻における専門的知識習得のために、多様なデザイン研究領域に対応したグラフィックデザインの技能を習得し、グラフィックデザインの実践的な知識と技能を工夫する。			
授業の概要 各自の研究テーマに必要なデザイン表現の考察を行い、研究テーマを平面から捉え直していく。造形学専攻の学位授与方針に基づき、課題は各自が研究・考察し決定したテーマに基づき、さまざまなメディア媒体を設定し、研究素材を選定しながら制作演習を行い作品の発表・検討、評価等を行う。			
授業計画 第1回：授業の概説 第2回：平面表現におけるデザイン表現の考察 第3回：デジタルサーネージにおけるデザイン表現の考察 第4回：印刷書籍のデザインの演習 第5回：電子書物のデザインの演習制作 第6回：ブランディングとデザイン 第7回：ブランディングのデザイン考察 第8回：ブランディングのデザイン演習制作 基本デザイン演習制作 第9回：ブランディングのデザイン演習制作 展開デザイン演習制作 第10回：課題制作 プロジェクトとデザイン 第11回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインと戦略設計 第12回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの企画 第13回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインと技術 第14回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインと管理 第15回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの検証 第16回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの管理 第17回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの商品化 第18回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの標準化 第19回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインとフィールドワーク 第20回：課題制作 プロジェクトとデザイン フィールドワークの検討 第21回：課題制作 デザイン修正 第22回：中間プレゼンテーションと講評 第23回：公共とグラフィックデザイン 第24回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザインの考察			

30 シラバス 造形学専攻

第25回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザイン制作 案の作成
第26回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザイン制作 案の試作
第27回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザイン制作 データ作成
第28回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザイン制作 プリントと検討
第29回：プレゼンテーションと講評
第30回：今後の展望とディスカッション

準備学習：

サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。

テキスト：

プリント等はその都度配付する。演習ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること

参考書・参考資料等：

特になし

学生に対する評価：

課題レポート40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%

授業科目名： 住環境特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：手嶋尚人
授業の到達目標及びテーマ 表現とまちづくりの関係性について理解し、表現の可能性について考察する。			
授業の概要 「表現とまちづくりの関係性について」をテーマとし、講義形式で行う。住民主体のまちづくりが、日本において言われてから既に30年以上が経つが、そのプロセスの大変さや合意形成の難しさなどから未だ定着できていない。近年、アート表現によるワークショップやイラストレーションによる視覚的な情報伝達の効果などまちづくりにおける役割が注目されている。また、地方においてもものづくりとまちづくりの関係が重要視されており、表現とまちづくりの関係を学ぶことの意義は大きい。具体的には、時間軸による分析と併せ事例の紹介をおこなっていき考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価等） 第2回：まちづくりと表現の変遷01（行政による彫刻のあるまちづくり） 第3回：まちづくりと表現の変遷02（再開発にともなうパブリックアートの設置） 第4回：まちづくりと表現の変遷03（市民団体によるアートプロジェクトの誕生） 第5回：まちづくりと表現の変遷04（アートプロジェクトと実行委員会形式） 第6回：まちづくりと表現の変遷05（地方発アートプロジェクトの隆盛） 第7回：まちづくりと表現の変遷06（遊休公共施設のアートセンター化） 第8回：まちづくりと表現の変遷07（ディスカッション） 第9回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の種類としくみ01（演劇と言語） 第10回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の種類としくみ02（音楽） 第11回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の種類としくみ03（美術） 第12回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の手法01（再発見・価値の転換） 第13回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の手法02（伝達・参加） 第14回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の手法03（定着） 第15回：まとめ（ディスカッション）			
準備学習： 毎授業後にはレポートを提出すること。			
テキスト： 随時指示する			
参考書・参考資料等：未定			
学生に対する評価： 授業への参加姿勢、レポートの提出により総合的に評価する。			

授業科目名： 住環境演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：手嶋尚人
授業の到達目標及びテーマ まちづくりにかかわる表現活動について、その状況や課題を理解し今後の展望について考察する。			
授業の概要 空間表現特論においてテーマとしている表現とまちづくりの関係性について事例調査・研究を行い、その結果をプレゼンテーションし、表現の持つまちづくりにおける役割について議論し考察する。特に、アート表現における価値の転換や再発見の力、またワークショップなどによる合意形成するコミュニケーション力を中心課題として考えていく。具体的には、まちづくりアートプロジェクトへの参加やアートNPOへのヒアリングを通して、現状を把握分析し今後の課題を発見考察していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価等） 第2回：まちづくりにかかわる表現活動の課題と研究テーマ抽出（ワークショップ） 第3回：抽出された課題と研究テーマについての検討（ワークショップ） 第4回：研究テーマの発表およびディスカッション 第5回：研究テーマに沿った調査準備01（調査候補地の選定） 第6回：研究テーマに沿った調査準備01（調査項目の決定） 第7回：事例調査01（候補地A） 第8回：事例調査02（候補地B） 第9回：事例調査03（候補地C） 第10回：事例調査に関する中間報告会 第11回：事例調査に基づく分析01（事例の特異性） 第12回：事例調査に基づく分析02（事例の共通性） 第13回：事例分析結果の発表会 第14回：まちづくりにかかわる表現活動の展望（ワークショップ） 第15回：まとめ（ディスカッション）			
準備学習： 毎授業後にはレポートを提出すること。			
テキスト： 随時指示する			
参考書・参考資料等：未定			
学生に対する評価： 演習への参加姿勢、レポートの提出および発表内容により総合的に評価する。			

授業科目名： 住環境演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：手嶋尚人
授業の到達目標及びテーマ 日本を中心に町並み保存、継承の状況や課題を理解し、今後の展望について考察する。			
授業の概要 継承とまちづくりをテーマとして行っていく。まちづくりの分野において、全国の重要伝統的建造物群保存地区など伝統的民家や町家、町並みの保存を資産、課題として行っているものは多い。近年、その中において、文化財としてのモノではなく、地域の生活文化としてまちづくりへ転換していこうという動きも増えている。ここでは、継承をキーワードとし、地域の生活文化とまちづくりについて考察する。具体的には事例調査を行うとともに具体的なエリアを取り上げ、そこにおける継承とまちづくりの可能性について検討考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価等） 第2回：町並み保存や継承の変遷（日本 1960年代以前） 第3回：町並み保存や継承の変遷（日本 1970年代） 第4回：町並み保存や継承の変遷（日本 1980年代、1990年代） 第5回：町並み保存や継承の変遷（日本 2000年代以降） 第6回：町並み保存や継承の変遷（世界 1970年代以前） 第7回：町並み保存や継承の変遷（世界 1980年代以降） 第8回：町並み保存や継承の現在（日本 東日本） 第9回：町並み保存や継承の現在（日本 西日本） 第10回：町並み保存や継承の現在（世界 アメリカ） 第11回：町並み保存や継承の現在（世界 欧州） 第12回：町並み保存や継承の現在（世界 アジア） 第13回：継承の意味について（ワークショップ：ディスカッション） 第14回：継承の意味について（ワークショップ：プレゼンテーション） 第15回：継承とまちづくりについての課題と研究テーマの抽出（ワークショップ） 第16回：抽出された課題と研究テーマについての検討（ワークショップ） 第17回：抽出された課題と研究テーマについてのまとめ（ワークショップ） 第18回：研究テーマの発表およびディスカッション 第19回：研究テーマに沿った調査準備01（調査候補地の選定） 第20回：研究テーマに沿った調査準備02（調査項目の決定） 第21回：研究テーマに沿った調査準備03（調査方法の決定） 第22回：事例調査01（候補地A） 第23回：事例調査02（候補地B） 第24回：事例調査03（候補地C）			

30 シラバス 造形学専攻

第25回：事例調査04（候補地D）

第26回：事例調査に関する報告会

第27回：事例調査に基づく分析

第28回：事例調査に基づくまとめ

第29回：事例分析結果の発表会

第30回：継承とまちづくりについての展望（ワークショップ）

準備学習：

毎授業後にはレポートを提出すること。

テキスト：

随時指示する

参考書・参考資料等：

未定

学生に対する評価：

演習への参加姿勢、レポートの提出および発表内容により総合的に評価する。

授業科目名： インテリアデザイン特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：豊田聡朗
授業の到達目標及びテーマ 「社会とデザインの関係性」について理解を深めデザインの役割と可能性を考察する。			
授業の概要 「社会とデザインの関係性」を人間らしさ・豊かさをサブテーマにしながらか講義+ディスカッション形式で行う。近代史から現在までのデザインの社会への関わりは、技術・戦争・思想の変化・ムーブメント・経済・環境問題・エネルギー問題などの影響を受けつつ私たちの生活に直接届いている。そしてそこで作られるデザインが、私たちの生活環境となり更に私たちの感性を育む。この時デザインはクライアントの思惑と社会の理想を背負う運命を辿るのだが、この複雑克つ矛盾を孕む状況下で1人のデザイナーとして判断する力・思想の礎を幅広い視点から養う。この講義は、造形学専攻の学位授与方針に基づき、デザインの生活美術における役割、産業、教育における役割を多角的に理解し専門分野としての学識を修得していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義概要、進め方、評価等） 第2回：歴史に見るデザイン1（産業革命～第1次世界大戦） 第3回：歴史に見るデザイン2（第2次世界大戦前後の世界） 第4回：歴史に見るデザイン3（60年代～80年代） 第5回：歴史に見るデザイン4（90年代～現在） 第6回：歴史に見るデザイン5（ディスカッション） 第7回：民族・風土・文化とデザイン1（テリトリー・プライバシー） 第8回：民族・風土・文化とデザイン2（虚無・間・闇・光） 第9回：民族・風土・文化とデザイン3（ディスカッション） 第10回：身体と心1（空間の認知・認識・身体と心） 第11回：身体と心2（成長：子供～青年～大人～高齢者） 第12回：身体と心3（ディスカッション） 第13回：環境問題とデザイン 第14回：エネルギー問題とデザイン 第15回：まとめ（ディスカッション）			
準備学習： 予習1時間、復習、ノート整理1時間 毎授業後にはレポートを提出すること			
テキスト：随時指示する			
参考書・参考資料等：未定			
学生に対する評価：予習・復習等20点、平常点40点、レポート40点 授業への参加姿勢、レポート提出により総合的に評価する。レポートはフィードバックを行う。			

授業科目名： インテリアデザイン演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：豊田聡朗
授業の到達目標及びテーマ 「人と人をつなぐ家具」をテーマに木材を主材にした椅子のデザインを試みる。			
授業の概要 「人と物の関係性」を「椅子という機能」と「人と人をつなぐ」をテーマの中心に考え、人間の観察、在り様を深く考察する。椅子は座るだけの道具ではなく、人の居場所や地位を表し、同じ空間を共有する者同士が相互を感じ対話やコミュニケーションのきっかけを作る。このような視点に考慮しながらデザインを試みる。 また、物の魅力・美しさの要素を様々な分野に視野を広げながらデザインの可能性を探る。 最終的に計画物は、原寸モックアップとして完成させる。素材感・大きさ・肌触り・居心地等の実体験をもって自己評価し、その魅力を学ぶ。(一部外注制作) 造形学専攻の学位授与方針に基づき、この演習では、身近な「家具」を通し、生活美術の可能性と意義を追及、専門分野の学識を広げ、能力を修得していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義概要、進め方、評価等） 第2回：既存椅子の分析1（機能と分類 分析発表+ディスカッション） 第3回：既存椅子の分析2（素材と形体 分析発表+ディスカッション） 第4回：既存椅子の分析3（意匠全体 分析発表・アイデア+ディスカッション） 第5回：「人と人をつなぐ」（ディスカッション） 第6回：「人と物をつなぐ」（アイデア+ディスカッション） 第7回：デザイン案1（アイデア+模型1/5エスキース 機能と形） 第8回：デザイン案2（アイデア+模型1/5エスキース 素材の選択） 第9回：デザイン案3（アイデア+模型1/5エスキース 人と意匠） 第10回：素材加工実験1（実験加工+エスキース 形と手法の検討） 第11回：素材加工実験2（実験加工+エスキース 素材の仕上げ方） 第12回：原寸図作成（基本図作成） 第13回：原寸図作成（詳細納まり継手構造の検討） 第14回：原寸図作成（詳細納まり加工方法の検討） 第15回：原寸図作成（外注図作成）			
準備学習：予習、準備、復習、整理等 各1時間 毎授業時にはレポートを提出すること。			
テキスト：随時指示する。			
参考書・参考資料等：未定			
学生に対する評価：予習、復習20点 平常点40点 レポート 作品 40点 演習への参加姿勢、作品、レポートの提出により総合的に評価する。			

授業科目名： インテリアデザイン演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：豊田聡朗
授業の到達目標及びテーマ 「人と空間」「人と物」：空間は、実際場所を設定し、また物は、商品開発のシミュレーションを通しその関係性の理解を深めデザインの役割と可能性を考察する。			
授業の概要 「人と空間の関係性」：見せる空間・集う空間・滞留する空間・往来する空間等の視点から各自がテーマとする実際の空間を分析評価し、その空間の機能を検討、新たな可能性を含みつつ個性と魅力を引出す計画をおこなう。 「人と物の関係性」：物を作る人（職人）・材料産地・営業販売者・企画計画デザイナーなど、それぞれの役割分担と協力の中で生まれる商品開発をシミュレーションする。計画対象物は、家具・室内装飾（インテリアオブジェ）・照明・カトラリー・システムツール・遊具・建具・カーテンブラインド等各自が関心事に焦点を絞る。また、職人の技術と地域の資材を活かす「人と人をつなぐ」・「技術と地域をつなぐ」商品を旨に企画提案を試みる。造形学専攻の学位授与方針に基づき、この演習では、「人・空間・物の関係性」を生活美術の視点より社会と産業、教育、創造のつながりの中に深く理解し、豊かな専門的能力を修得していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義概要、進め方、評価等） 第2回：人と空間-基礎1（特論を補完する形で講義＋ディスカッション パーソナルスペース） 第3回：人と空間-基礎2（特論を補完する形で講義＋ディスカッション コミュニケーション） 第4回：人と空間-日本の伝承文化1（映像資料を基に各地の伝承文化を紹介、 日本人の空間や物に対する感性を俯瞰する 祭り 年中行事） 第5回：人と空間-日本の伝承文化2（映像資料を基に各地の伝承文化を紹介、 日本人の空間や物に対する感性を俯瞰する 日常生活） 第6回：フィールドワーク1（見る空間・見せる空間・集う空間をテーマに実際の空間へ 観察調査及び人と空間の関係性を分析する） 第7回：フィールドワーク2（滞留する空間・往来する空間をテーマに実際の空間へ 観察調査及び人と空間の関係性を分析する） 第8回：フィールドワーク3（祈る空間・解放する空間・緊張する空間をテーマに実際 の空間へ観察調査及び人と空間の関係性を分析する） 第9回：空間デザイン1（各自の選択した実空間を分析＋ディスカッション 人の量・年齢・ 性別） 第10回：空間デザイン2（各自の選択した実空間を分析＋ディスカッション 人の状況・行楽・ 仕事） 第11回：空間デザイン3（空間の計画概要を検討＋ディスカッション） 第12回：空間デザイン4（空間の計画エスキース＋ディスカッション）			

- 第13回：空間デザイン5（計画内容3D化又は模型制作、空間構成の再検討）
- 第14回：空間デザイン6（計画内容3D化又は模型制作、詳細の検討）
- 第15回：計画プレゼンテーション+講評及びディスカッション
- 第16回：人と物-基礎1（特論を補完する形で講義+ディスカッション 機能と利便性）
- 第17回：人と物-基礎2（特論を補完する形で講義+ディスカッション 嗜好性と多様性）
- 第18回：物のデザイン [商品開発シミュレーション]
 計画概要・企画立案1（社会的ニーズ・役割位置付け・実現性の検討）
- 第19回：基本素材の調査1（素材の可能性・地域性の検証）
- 第20回：加工技術の調査1（必要な加工技術・職人の検証）
- 第21回：計画概要・企画立案2（ニーズ・役割・地域連携の可能性を探る）
- 第22回：基本素材の調査2（素材産地と地域連携・職人連携の可能性を探る）
- 第23回：加工技術の調査2（加工技術の検証・職人連携の可能性を探る）
- 第24回：営業・販売計画立案1（主な営業媒体と方法の検討・販売計画）
- 第25回：営業・販売計画立案2（主な営業媒体と方法の検討・販売計画・メンテナンス・サポート計画）
- 第26回：製品デザイン1（エスキース+ディスカッション コンセプトとデザインの整合性）
- 第27回：製品企画まとめ（エスキース+ディスカッション コンセプトの決定）
- 第28回：製品デザイン2（エスキース+ディスカッション デザインの効果検討）
- 第29回：製品デザイン3（エスキース+ディスカッション デザインの詳細検討）
- 第30回：プレゼンテーション+講評（ディスカッション）

準備学習：予習1時間 復習1時間

毎授業後にレポートを提出すること。

テキスト：

随時指示する。

参考書・参考資料等：

未定

学生に対する評価：予習・復習準備20点 平常点40点 レポート作品 40点

授業への参加姿勢、作品、レポートの提出により総合的に評価する。レポートのフィードバックを行う。

授業科目名：研究指導 特別研究・制作	単位数：10単位	必修	担当教員名：15名
<p>授業の概要</p> <p>被服科学、服飾造形学、服飾デザイン学、および造形表現の各分野に関して、研究の実践、指導を行い、またこれらについて論文指導を行う。</p> <p>(山田民子)</p> <p>アパレル設計学特論やアパレル設計学演習Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎として、衣生活に提案できるような商品製作を目指し研究指導を行う。</p> <p>(有馬十三郎)</p> <p>次世代インターネットにおけるグラフィックデザインとデジタルデザインの研究を目的とし、デジタルメディアのコンテンツやインターフェースのデザイン開発や制作を行う。</p> <p>(石田恭嗣)</p> <p>衣服を幾何学、身体と環境との関係などさまざまな視点から考察する。そのなかからテーマを設定し、耽美と機能性を同時に満足させる表現についての研究指導を行う。</p> <p>(潮田ひとみ)</p> <p>健康で快適な衣生活を目指して、興味のあるテーマを選択させ、関連する分野の先行研究を、適宜参考にしながら、着心地の良い被服設計のために必要な各種評価法や解析法を指導する。</p> <p>(押元信幸)</p> <p>多種多様な工芸技法のうち、特に金属立体造形にかかわる技法と、その応用について講述する。試作実技を含む。</p> <p>(兼古昭彦)</p> <p>幅広い映像表現メディアの手法を用いて、身体や空間、社会などとの関係から、映像表現についての調査・研究考察を行い、その結果を踏まえた上での、映像メディアを用いた作品制作・発表に対するの研究指導を行う。</p> <p>(高田三平)</p> <p>陶芸の素材や技法の特殊性と新たな発想を結びつけて、表現としての作品制作の可能性を広げる研究のための指導を行う。</p>			

(高水伸子)

材料の特性を生かした衣服のデザインと表現方法を歴史の実例を振り返りながら研究・分析し、実際に布を用いてテーマ性のある作品の制作指導、あるいは布を用いた実証を伴う論文指導を行う。

(手嶋尚人)

日常の暮らしを豊かに楽しくするまちづくりについて、表現や生活文化の継承等をキーワードとし、その現状と今後のあり方を課題とする。地域におけるまちづくりの比較検討や具体的な地域を対象とした調査・分析等、テーマにあった研究指導を行う。

(松木孝幸)

服飾史あるいは家政学に関する多数の文献資料をデータとして、資料中に現れる単語の分類、出現頻度、等の統計的な解析を元にして、家政学の特定分野の変遷の分析を行い、研究の実践、指導、および論文指導を行う。

(森俊夫)

環境時代に人々の感性が帰ってゆく方向をよく見極めて、服飾生活において、その自然感、健康感、安全性などを展開することにおいて天然染料によるエコカラー染色の開発を追求し、色彩科学的アプローチによる研究指導を行う。

(豊田聡朗)

人と空間・人と物の関係を多様な民族の伝承文化による違い、時代による違い、見せる空間・集う空間・滞留する空間・往来する空間・冠婚葬祭・火・水・蔵神・祖などの設えを比較分析し、将来に向け具体的なデザインの可能性と役割を探る事を課題とし研究指導を行う。

(濱田仁美)

被服材料の機能性、風合いに着目し、新たな機能性を有するテキスタイル素材の提案を目標として、興味のあるテーマを設定し、物性評価・解析を含む科学的アプローチによる研究指導を行う。

(早瀬郁恵)

繊維素材を基本とした制作表現の中で、染色表現の研究考察を通してテーマを設定する。これまで学んできた様々な技法や加工法を応用し、より高度な表現力を養い、制作及び発表をする。

(山藤仁)

平面表現を基盤にした、研究と応用及び制作。絵画表現の研究・制作を通じて各自の制作に於いてのテーマをより明確にし、これまで学んできた多様な技法等を応用し、平面表現の可能性を追求することを課題として研究指導を行う。